

BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch

DEC.2022

九州で活躍する建築家のための情報誌

Contents

| | |
|-----------|--------|
| 支部長挨拶 | P2 |
| とくべつきこう | P3-5 |
| おしえて | P6-7 |
| とりせつ | P8-10 |
| とびっくす | P11-13 |
| あのところ | P14-15 |
| よかもん | P16 |
| わさもん・いまどき | P17 |
| 協力会つうしん | P18 |
| 委員会報告 | P19-24 |
| 地域会活動報告 | P25-40 |
| 編集後記 | P41 |

支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

2022年も残り僅かとなりました。仕事納めのこの時期になりますと一年の終わりの速さが年々増しているように感じますが、会員の皆様におかれましては年末を迎え、何かとお忙しいことと存じます。年末の締めくくりとして、今年一年を振り返りながら少し総括したいと思います。

2022年もコロナ禍でのスタートとなり、リモート主体の活動から対面での事業再開を模索しながらの運営でしたが、九州支部の主な事業はほぼ対面で開催する事ができました。安全対策も含め、ご尽力をいただきましたJIA会員の皆様と関係者の皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

毎年3月に開催される学生デザインレビューは、今年もコロナ禍による会場の条件から場所がなかなか定まらず、直前まで開催が危ぶまれる状況の中、九州産業大学の矢作先生のお力添えにより、3年ぶりに対面での開催が実現しました。全国から駆けつけた学生たちが模型を持ち込み、作品を前にしながらクリティークとの白熱した議論や熱気に包まれた会場を拝見しながら、リアルの大切さを改めて感じた2日間となりました。

5月には九州支部通常総会を開催致しました。総会も対面での開催は3年ぶりとなりましたが、過去2年間の総会はリモートでの開催となり、会員集会や懇親会も無く寂しい感がありましたが、今年の総会後の懇親会は総勢70名程の方々にご参加いただき大盛況に終わりました。私自身も支部長を拝命してから直接お話しする機会に恵まれずにおりましたが、ようやく皆さんの前で所信表明ができ、改めて気の引き締まる機会をいただきました。

9月からは九州支部事業の復活祭とも言える主な事業が立て続けに開催されました。コロナ禍で延期になっていた建築塾を熊本地域会の主導で開催致しました。自然豊かな阿蘇での合宿形式による建築塾は、大変有意義な時間となりました。

翌週には、北福岡地域会主導で九州支部大会を北九州市で開催致しました。支部大会は2年に1度の開催ですが、実に4年ぶりとなる対面での開催となりました。北福岡地域会が長年取り組んで来られた日韓合同学生ワーク

ショップとの合同開催で企画致しましたが、総勢100名を超える皆様にご参加いただき、大きな成果を生み出せた大会となりました。

10月には沖縄でJIA建築家大会(全国大会)が開催され、九州支部から55名の方々にご参加いただきました。沖縄支部の素晴らしいおもてなしの中、沖縄が抱えてきた歴史と建築の変遷を学ぶ機会をいただき、また首里城の復興状況も見学致しました。2日目には恒例の九州ナイトを開催し、九州支部会員のみならず全国のJIA会員も参加し大盛況に終わりました。

九州の若手建築家を主体として始まった企画「支部長漫遊記」も昨年は鹿児島、熊本、長崎と廻り、今年は福岡、大分、北福岡で開催できました。各地域で活躍する若手建築家が多く存在する事を知り、九州の底力を感じている所です。来年は宮崎と佐賀への訪問を予定しており、今後もこうした建築議論を通して九州の建築界を盛り上げ未来への一助になればと、今後も活動を続けて参ります。

足早に今年の主な活動を振り返ってみました。安全対策を講じながら何事もなく対面開催ができました事を改めて感謝申し上げます。

今年は建築市場の高騰に翻弄された1年であったかと思えます。予算調整しても押し寄せる価格上昇の波。私自身もこれほど苦悩した年はありません。未だ改善の兆しが見えない中で来年もこの状況は続きそうです。

こうした状況下でも私たち建築家は、高い職能をもって様々な苦難を打開し、建築を通して社会に貢献していく使命があります。その為にも、JIA会員間の情報交換の場を広げていく必要性を感じています。

来年も様々な事業を展開して参りますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、年の瀬の慌ただしい中体調など崩されませんよう、くれぐれもご自愛いただき、良き新年をお迎えください。

2023年が皆様にとって素敵な一年となりますように。

「JIA建築家大会2022沖縄」に参加して思うこと



西岡 弘（福岡地域会）

「失われることによって見えてくるもの」これは沖縄で行われた私が所属する日本建築家協会の全国大会の大会テーマである。コロナ禍で2年延期されての実施であり、失われた時間と焼失した首里城を念頭に置いてのテーマである事は容易に推測できる。

式典会場となったホールの設計に携わった東大名誉教授の香山壽夫氏の基調講演は、86歳の高齢ながら矍鑠としていて内容も素晴らしかった。歴史に学ぶ事が話の要諦であったが、海外での遺跡や歴史的建造物の写真、自身の実績体験など映像を踏まえての講演は判り易く示唆に富むものであった。この講演を聞きながら随分前に読んだ詩人で文筆家の佐々木幹朗の著による「柔らかに壊れる」を思い浮かべていた。福岡に帰って早速書棚から探し出し読み直してみた。副題に都市の滅び方とあった。

本の内容の大部分を占めているのは、明治末期に工事が始まり1915年に完成した主に政治思想犯を収監していた中野刑務所が、1983年に解体されるまでの様子が述べられている。ゆっくりと解体される過程を、詩人の感性ある眼で観察した経過が、建築家の来歴などと共に書かれている。設計者は司法省技師の後藤慶二で、彼は「真の建築は自己の内面の充実から生まれる」と言い独特の設計を行っていたが、36歳で夭折してしまった天才建築家であった。

建設で使われた鉄筋は、八幡製鉄で作られた日本初の丸鋼という事で、コンクリートを取り除き短く裁断し刻

印を施した文鎮を作り、関係者に記念品として配った事が書かれている。当時の役人の中には、気の利いた事をする人がちゃんといたのだと感心したのと同時に、この部分を読み直して私は自分の力量不足配慮のなさを恥じた。

と言うのも私が磯崎新アトリエで設計と監理に携わった博多駅前の西日本シティ銀行本店（旧西日本相互銀行本店）解体と照らし合わせての事である。解体すること自体は、設計者の磯崎新も諸般の事情からやむを得ないだろうと言っていたので保存運動等も起こらなかった。それは仕方ないとしても、残念なのは当時衝撃的であった建物を特徴づけていた赤いインド砂岩の破片を使って、前述した鉄筋と同じような利用を考えつかなかったかという事である。現在解体も終了し新たに作る建物の基礎工事が既に始まっている。

磯崎新が若い時インドを旅行してこの赤砂岩に遭遇している。大きな寺院ファテプールシクリ全体を覆いつくすように使われていた。この派手な石材を銀行本店というお堅い建物で、監督官庁あたりからいろいろ異論のある中で使ったのである。全体の形態のユニークさと共に博多駅前のシンボリック存在であった。その後あちこちでこの赤砂岩を用いた建物を散見する事になる。

砂岩と言っても緻密でかなり重い石である。文鎮としての利用は、昨今余りないかもしれないが記念の置物ぐらいにはなろう。建設と解体に携わった大林組にかけあって造る算段をしなかった事が悔やまれてならない。

せめてゆっくりの解体ではなかったが、内部の美術品を片付けたり、壁に直接描かれた絵を保存したり等、それなりに通常の解体より神経を使っての解体であったろうから、経過を映像で残しておくべきだった。私は初期に設計者がいろいろの模型を作って悩んでいた頃から携わっており、それらを含めてこの建物の生い立ちから壊れてなくなるまでのストーリーで1冊の本が書けたであろう。

いずれにしても日本では経済活動のテンポが早すぎて検討の余地がない。何事ももう少し大事なことは時間をかけて英知を絞って進めなければならないのではないかと、自分の不甲斐なさを棚に上げて想うのである。

現在は仮囲い状態で駅前空間はぼっかりあいて広々としている。この情景を見るにつけ隣の朝日ビルも同じ頃竣工した建物でもあり、おそらく更新の話も出ている事だろう。これも含めて更地にして駅前広場を拡張すれば、アジアの玄関口としての品格も出てきたのではないかと思う。福岡市の財政なら買い取る意思さえあれば可能ではなかったか。どれもこれも「あとの祭り」の話で、まさに「失われて見えてくるもの」ばかりである。

このフレイズは人間にとってもしばしば気づかされる事だ。良い評価として後の人に見えてくるように、後期高齢者としては日常をしっかり生きなければと思うのである。

福岡会の忘年会でも述べたように、全国大会のウェルカム行事として多くの建築家がサンセットクルーズ船に乗り合わせたのだが、つい何か月前に起こった北海道クルーズ船沈没のような事が起これば建築設計界にとって大変な損失になったであろう。まさに「失うことに

よって見えてくるもの」のフレイズが再度ここで使われる事なく済んで幸いであった。

建物の解体もさることながら人間もゆっくり壊れたいものである。病気や不祥事を起こして晩節を汚す等急激な壊れ方でなく、健康体で少しずつ老いていく努力が必要だ。

件の著者は「過ぎ去ったものを最も良く語るのは（中略）、人間ではなく彼を閉じ込めていた空間が最もよく語る。しかも、その残されていた空間が壊され、地上から永遠に姿を消す寸前の、廃墟が云々」と言っている。線香花火が終わる寸前に最後の力を振り絞って火花を散らすように廃墟に人は引き付けられる。人間の作ったものはいつか滅びるのだが、長い時間の滅びの過程の一断面を切り取って我々は見ているようなもので、廃墟は過ぎてきた時間を、そしてこれからの未来を語るから興味をそそるのだ。そして人間を包み込み閉じ込めてきた空間が一瞬にしてその営みの断絶を表徴するから魅力的なのだ。

木造住宅は上棟時が魅力的なのは、その骨組みの表れかたにもあるが、これからこの建物の中で繰り広げられる住まい手の起点として想像を掻き立てられるからで、廃墟が営みの終点を想起させる事と対をなす感慨によるものではないか。

この本は2003年に出版されており、後ろの方で阪神淡路大震災にも触れていて、災害時に建物がいかに柔らかく崩れるかが重要で、その間に避難し少なくとも人命だけは助かることが大事だとも述べている。沖縄大会をきっかけとして、この本の再読から駆け足で書いた拙い記述を通していろいろ考えさせられ、久しぶりに充実し

た時間を過ごした。

唯、式典については一言述べておきたい。前述のように我々は歴史伝統から学び未来に生かし継承していく役割がある。しかるべき行政の長を招き、通常の様式に則って式典を行うなら式典会場に国旗やJ I A旗を掲揚すべきと思うがなされてなかった。どのような経緯でそうなったかは判らない。沖縄の置かれた複雑な状況は理解できるが、国家への意識が低くなっている事もあるのだろう。

戦後、日本の統治に当たって300年にも満たない歴史しかないアメリカは、2000年の歴史と伝統を持つ日本そして日本人を警戒し、それまでの組織や考え方などことごとく解体や変質を企てた。教育もその大事な標的で、アメリカの教育学者J・デューイによる教育方針をおしつけてきた。簡単かつ乱暴に述べると、子供の教育において歴史や伝統を教える事は発想の足かせになる自由に学ぶ環境が大事であると言うものであった。日教組は戦前戦中に過剰反応していた事もあり、又、この方が教える側は楽な事から一も二もなく飛びついた。その結果が今において見事に成果として実を結んでいると言ってよいだろう。歴史や伝統を学ぶ事から離れていく事は国を想う心も希薄になっていく事に繋がる。又、自己中心的で身勝手な心を育てる。何か事が起こると政治が悪い、体制が悪い、誰誰が悪いと外に要因を持っていこうとする。自己責任などと言おうものならマスコミから袋叩きに会う風潮だ。何何が悪いと攻めていけば気分も良いし自分はいいい人の側にいられる。これでは問題を内在化できず適切な判断も新たな建設的な発想も生まれてこないのである。

国について考える事を忌避する風潮の中で、国家が前に付く資格を持って仕事をしている事をどのように認識しているのだろうか。私は一級建築士として自分の名前で登録し仕事もしてきたので自然に保守であると自覚している。保守は何も卑下する立場でもない。いまの国体、体制、制度を維持継続する意味で保守であり、その制度によって独占的に設計業務が与えられているからである。保守は進歩主義と自由主義の対立概念的に捉えられるが、保守においても変革も進歩もありうる。反体制的姿勢を貫くのは勝手だが、ならばせめて資格者を雇って設計の仕事をするくらいの根性と筋目を通してもらいたいものだ。又、国家資格がなくてもできる仕事は幾らでもある。

中国と日本の狭間にあつて、敢えて琉球と拘るように、歴史的経緯からも独立あるいは中国に組み込まれる事を由とするも、とやかく言う道理はない。沖縄住民が決める事であり、曖昧な状況からいづれ旗幟を鮮明にする必要が遠からず起きてくるであろう。基地問題も本来そこに帰結するからだ。沖縄住民のみならず、本土の国民全体がこの問題をしっかり受け止めて対処しなければならない。

これこそ「失われて見えてくるもの」などと悠長な事を言っではいられない。失ってからでは「後の祭り」で失う前に検討し行動を起こさねばならない。

国産材の活用促進のための新たな木造構法開発



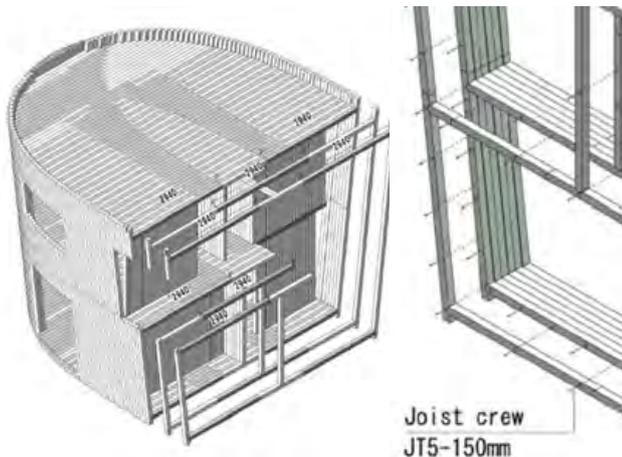
福田 展淳 (北福岡地域会)

北九州市立大学国際環境工学部 建築デザイン学科 教授

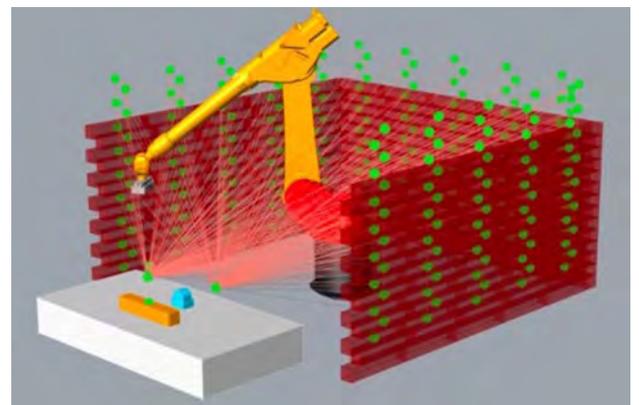
研究室は、現在、特任研究員7名、研究補助者5名、研究協力者7名、博士後期課程30名（留学生29名）、修士課程11名、卒論生7名で、総勢67名の大所帯である。

学生が多い分、研究分野も多岐に渡り、住宅の床下の結露問題、省エネルギー住宅の熱負荷シミュレーション、105角材を用いた縦ログ工法開発、ヒートアイランド削減手法、アルゴリズムデザイン、不燃木材、圧縮木材開発など、実務面では、CLT折板構造を用いた研究所の設計などを手掛けてきた。ここでは、研究室でおこなってきた木材を用いた研究及び設計事例を紹介する。

杉105角を用いた木造積層工法は、日本全国で入手可能な、杉の105角を縦に並べ、木材だけで、床、壁、屋根を作る工法である。木材の材料費は高くなるが、ただ、木材を並べるだけのため特殊な技術が必要なく、セルフビルドでも建設できる工法である。



ロボットによる木造積層工法は、杉105角材を600mmカットしてブロック化し、ロボットに積層させる工法である。高さ1m程度までを1スパンとし、スパンごとに建設したものをクレーンで立ち上げて組み立てる。ロボットを、建設現場に設置し建設するため、建設方法自体をロボットに建設しやすい工法としている。



ロボットによる住宅建設のため実験風景

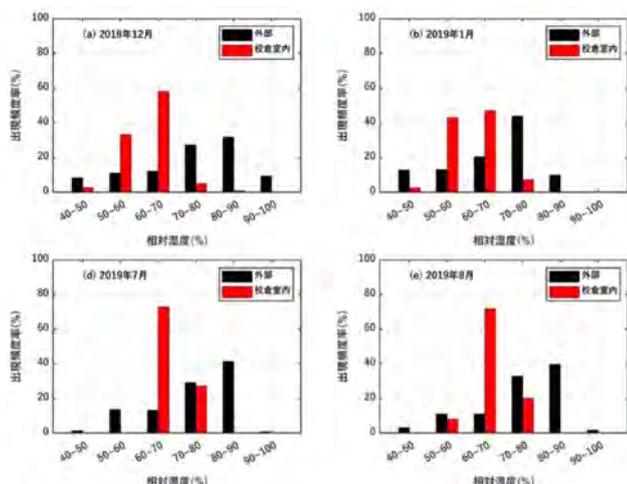


杉105角を用いた木造積層工法（広島）

西の正倉院の温湿度実測調査は、JIAメンバーの松島逸人氏が、博士論文のテーマとして取り組んでいる研究である。西の正倉院は、奈良の正倉院を忠実に再生し、宮崎県に建設された展示施設である。密実に木材を用いた構法が、なぜ、国宝を保存する場所として使われたのかを探るため、3年間にわたり、温湿度実測をおこなっている。



宮崎県に建設された西の正倉院



校倉内(赤)は、夏も冬も、高湿化、低湿化が抑えられている

る。床の板張りや、ただ単に木材を積み重ねているため、木材同士にはわずかに隙間があり、完全な密閉構造とはなっていないが、夏も、冬も、木材の調湿性能が十分発揮されていることがわかり、校倉づくりの機能を実感する結果となった。

CLT折板構造の研究所：最後に研究室として利用しているメルディア高機能木材研究所は、2020年1月、三栄建築設計からの資金と環境省の補助金を得て完成した。グッドデザイン賞、ウッドデザイン賞審査委員長賞、木材利用優良施設コンクール優秀賞、第7回福岡県木造・木質化建築賞優秀賞などを受賞し、高く評価いただいている。



天井高7.5mの空間をCLTを屏風状に配置し実現 写真:大森今日子



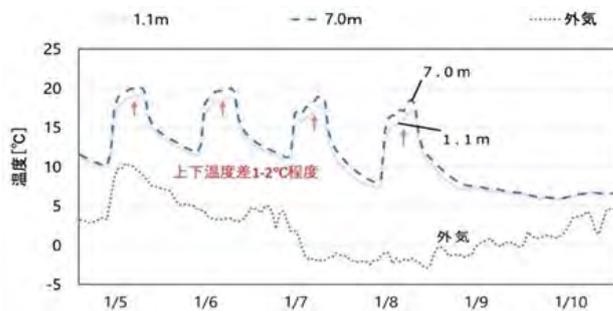
外壁は断熱材+耐久性の高いガルバリウム鋼板 写真:大森今日子

国内初のCLTによる折板構造

この建物は、2016年から国内で一般利用がスタートした国産杉によるCLTを利用している。CLTは、CROSS LAMINATED TIMBERの略で、板材の軸方向と軸と直交方向の両方向に圧縮力・引張力を負担させることができる。同類の材料として板材を重ねて接着した集成材があるが、これは、柱や梁として利用される軸方向に圧縮力・引張力を負担させる軸材である。CLTの面的に広がった板として強度が得られる構造特性を踏まえ、ほとんど例のない木造折板構造とし、十分な剛性と平均幅7.5m、高さ7.5mの大空間を確保した。また、90mmという極薄のCLTを折板構造にすることで建物全体を軽量化し、工期を短縮してコストも抑えている。壁と屋根の全てが国産杉で、CLTの長さは、国内で生産できる最大寸法12m、厚さは構造材としては最薄の折板構造となり、日本初の試みとなった。構造設計は本学の藤田慎之輔先生が担当された。その構造的特徴が建築の外観や内部デザインの先進性や独自性に大きく寄与している。また、CLTを外壁に使うことで断熱性能を向上させ研究施設としての居住性を高めている。

高い省エネルギー性能

天井高は3倍であるが、エネルギー消費量は、従来のオフィスと比べ約半分で、大幅な省エネ、低炭素化が実現できた。これは、すべての外壁と天井材が、熱伝導率の小さい杉材で構成され、さらにその外側に高性能断熱材を貼付していること、熱が逃げやすい窓面積を最低限に抑えてこと、構造躯体に用いた木材が、コンクリートや鉄に比べ熱容量が小さいことが挙げられる。熱容量は、温度を1℃上げるのに必要な熱量のことで、比熱の大きなコンクリートや鉄を構造躯体とする建物は、木造に比べ必然的に熱容量が高くなり、暖冷房時は、比熱の小さな空気だけでなく躯体の温度が室温と同等になるまでエネルギーが使われるため、多くのエネルギーが必要となる。



高さ1mと7mの冬季の室内温度変化 (2021年1月)



夏、冬とも、上下温度差は最大で2℃

「建築家派遣エコルサポート」活動報告

「建築家派遣エコルサポート」は、小・中学校の児童を対象とした建築教育支援活動の一環として、2019年度に九州支部事業として発足した事業です。

「総合的な学習の時間」の授業に建築家を派遣し出前授業を行い、未来のある子供たちに対して建築やまちづくりへの意識を啓発することを目的としています。昨年に引き続き今年もJIA九州支部会員およびサポートスタッフで活動しましたのでご報告します。

「総合的な学習の時間」の位置づけと発足からの経緯

小・中学校等の学習指導要領が適用される学校では2002年度から「総合的な学習の時間」がカリキュラムに組み入れられ実施されています。総合的な学習とは、子供たちが自ら学び、自発的に考える力を身につけ、よりよく問題を解決する資質や能力などを育むことをねらいとして実施されている学習活動です。これまでは外部からの教育支援活動として、様々な専門家や団体により多様に取り組みされてきましたが、JIAとしても学校教育における建築やまちづくり学習の展開に地域の建築家として人材貢献できるものと考え、川津悠嗣会員(前九州支部長)の提案により本事業が発足しました。昨年までに2回実施しており内容は以下の通りです。

2019年の学習内容：「東住吉まちづくり隊」とし自分たちの住むまちの課題を考え、理想のまちを創造して模型を製作。

2021年の学習内容：「夢の小学校づくり」とし自分たちが利用している学校の敷地に理想の学校を創造してプレゼンテーションパネルおよび模型を製作。



今井 秀明 (福岡地域会)

活動報告

昨年と同様に今年度も福岡市立東住吉小学校6年生を対象とした建築家派遣エコルサポートの依頼をいただきました。学習内容は「私達の小学校を建てかえる」として全4回の授業サポートを実施しました。

第1回目授業は、川津会員、福田会員が出前授業を行い小学校建築についてレクチャーし、子供たちの理想とするこれからの小学校を計画していきました。学校内を調査し、他の小学校事例を学ぶと日頃より何気に使っていた学校と「建築」を結びつけることができ、建築が身近であることを子供たちが認識できる良い機会であると感じました。



レクチャと課題発表 6月30日

第2回目授業は、JIA会員が参加し第1回目授業を基に子供たちが5班に分かれ各班プランを発表してもらい、発表方法は平面、立面図等をプリントにまとめスライドを使用し小学校に必要なもの、あったらいいなもの、外観、内観等を話して頂きました。この時点で班毎の特色や具体的な案なども発表されJIA会員が驚くようなプランもあり自由で個性的な案が出されまし

た。この授業で会員は次回授業の模型作りに移行するためのアドバイスをを行いプランがより実現できる様に調整を行いました。また、次回までに各班の構想を1枚のパネルにまとめて模型とあわせた成果物とすることを要請しました。



プレゼンと講評 7月19日

第3回、第4回目授業では、JIA会員4名、サポートスタッフ6名が参加し各班の模型制作をサポートしました。基本的に制作は子供たちが行い、会員およびサポートスタッフは立体視が不慣れな子供たちをサポートし具現化できるように材料提案やアドバイスをしました。



模型製作1日目 10月4日



模型製作2日目 10月14日

サポート側においてもアドバイスは制作方法の提案のほか、子供たちの作業分担や共同作業の役割決めなど実務において必要となるディレクション技術の経験ができる良い機会であると感じました。第4回目授業の後半ではそれぞれ完成したパネルと模型を展示しお互いの作品を見合わせたのち、サポート側の投票によりMVPや各賞を決定し表彰を行いました。どの作品も特色があり子供たちが達成感を感じることで総合的な学習の目標である自ら課題を見付け、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てることができる充実したイベントであると感じました。

建築家派遣エコルサポートの今後

今年で3回目となったこの事業ですが当初より同学校にて活動を行っています。小学校も前年度より校長が交代しておりますが継続して本事業を総合的な学習カリキュラムに組込んで頂き建築やまちづくりに興味を持っていただいているのは喜ばしいことだと感じます。

エコルサポート事業は子供たちに寄り添い活動しておりますが、建築やまちづくりへの意識の啓発を目的とすれば関わり方も今後多様化するのではと思います。今回

の様に建物を計画し実際に模型としてかたち造ることで建築を知る、創造する体験ができることは貴重な経験となるため続けていきたいですが、第1回目授業の様に建築が身近なものであると認識して興味をもってもらい機会も増やし、活動を通じて子供たちに建築やまちづくりの面白さや大切さを伝えることができればと思います。

今後もこのように総合的な学習や学校教育の一環として取り入れて貰える活動を広げていきたいと思っています。そうすることで啓発活動につながり建築に興味を持った子供たちを増やすことで建築文化の発展に寄与できるのではと考えています。



各班の模型作品

最後になりますがエコルサポート事業にご依頼、ご参加頂いた小学校校長、職員、児童および保護者の方々、J I A九州支部会員、サポートスタッフ、各関係者の方々へ本事業にご賛同ご協力頂き誠にありがとうございました。

建築家派遣エコルサポート2022事業

「福岡市立東住吉小学校6年生総合学習サポート」

対象：6年生の1クラス

概要：「私達の小学校を建てかえる」をテーマに6年生が5班に分かれてコンペ形式でそれぞれ案を発表。

単元：総合的な学習の時間(生徒が自発的に横断的・総合的な課題学習を行う時間)

日程：第1回 6月30日(木) 10:40~11:25 福田哲也会員によるレクチャーと課題説明

第2回 7月19日(火) 10:40~12:15 中間発表、学校側で調査ヒアリングを各自行い計画のプレゼン発表と派遣会員の講評を行う

第3回 10月4日(火) 9:40~12:15 模型制作1日目

第4回 10月14日(金) 9:40~12:15 模型制作2日目と発表を行い、当日各賞の発表と講評を行う。その後一定期間パネルと模型を廊下に展示し保護者にも見ってもらう時間を取る予定

人員：J I A福岡地域会員(5名)

川津悠嗣、福田哲也、佐々木寿久、有吉兼次、今井秀明、及び模型制作サポートスタッフ(6名)

裏を表へ！歴史を未来へ

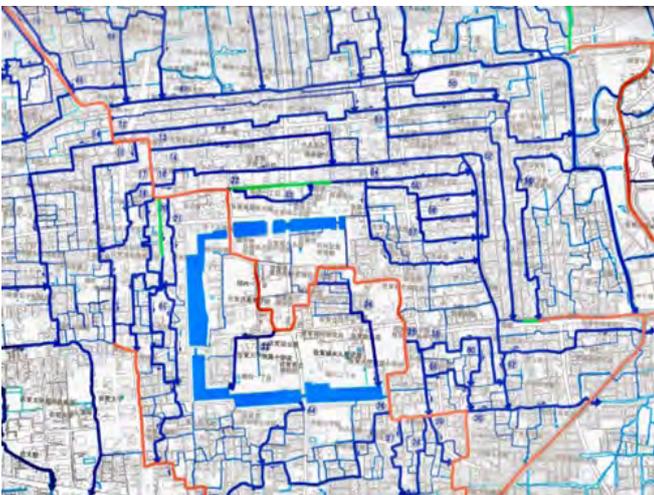
今回は、佐賀市の中心市街地でまちづくり活動として行なっている「さがクリークネット」の活動についてご紹介いたします。

■クリークとは？

佐賀市の中心市街地には「クリーク」と呼ばれる水路が網の目のように張り巡らされていることをご存知でしょうか。

九州最大の平野である筑紫平野は、広大な稲作地域として古来より発展してきた反面、海拔が低く平らな地形（低平地）であるため、“晴れたら干ばつ、降れば洪水”と言われるほど、水の利水・治水には苦労が絶えない地域でもあります。

そういった場所に築かれた佐賀城下町は、都市の中で生活用水・農業用水の確保や雨水の貯留・排水、さらには物資や人の輸送（舟運）、防衛といった複合的な機能を併せ持つ都市の骨格として、川とは違う性格であるクリークを整備し、その総延長は佐賀市中心部だけでも2,000km以上に及びます。佐賀ならではの土木遺産であるクリークは、上下水道や道路交通が発達した現代でも大切な地域資源として街なかの至るところに存在しています。



佐賀市中心市街地の水路図（現在）

川崎 康広（佐賀地域会）



■建築仲間とクリークを使ってみる

佐賀市中心市街地は近年、少子高齢化や人口の郊外流出が進む地方都市の一つです。クリークを活用したまちづくりの活動を始めたのは、私が水辺を活かした街の魅力アップに取り組みたいと考えていた頃、佐賀市街なか再生会議（佐賀市）が開催した「クリークシンポジウム（2014年）」で、利水・治水に詳しい専門家やクリークの歴史を研究している方などと出会ったことがきっかけでした。

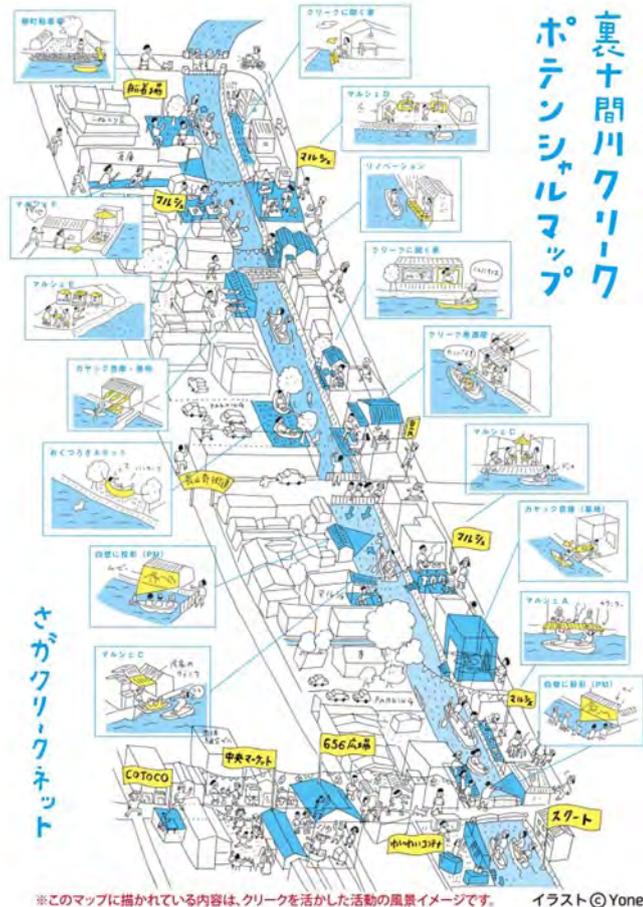
まず最初に、クリークの実態を見てみるために、佐賀市の職員や建築仲間と共にカヤックに乗って街なかのクリークを進んでみると、それまでの「街なかの水路は危険・汚い」といったイメージとは全く真逆の、美しい緑や澄んだ水面、ゆったりと泳ぐ小魚や、石垣・橋などの歴史的な構造物など、まさに“地域の魅力そのもの”というような素晴らしい風景が広がっていたのです。

さっそく私たちは、より多くの市民にクリークの価値を再認識してもらおうと、関係各所に協力を仰ぎ、安全に水面に下りるための船着場づくりワークショップと、水面の良さを体験してもらうための和舟・カヤックフィールドワークを開催しました。



船着場づくりWS（2015年8月）

そういった取り組みが発端となり、JIA佐賀地域会や佐賀県建築士会をはじめとする各種団体や行政、企業、大学、自治会、市民など多彩なメンバーが集まり、「さがクリークネット」という名称で街なかのクリークを活用したまちづくり活動が動き出しました。



裏十間川クリークポテンシャルマップ

■裏を表へ

2年目からは、カヤックや和舟体験といったアクティビティに加え、江戸時代より商業地として栄えた柳町・呉服元町といった長崎街道沿いの敷地の裏にあたる水路（裏十間川）での、賑わいづくりの取り組みへと発展していきました。

近年アーケードが取り外され、空き店舗が増えていたこのエリアで、いつしか裏となっていたクリークにもう一度光を当て、水辺と共にある豊かな暮らしの風景を取り戻したいという共通認識のもと、まずは水路沿線の住民の理解を得るため、「裏十間川クリークポテ

ンシャルマップ」を作成し、直接水路沿いの一軒一軒へ私たちのビジョンを伝え、地域の自治会とも共有しながら活動を進めました。

水辺を街なかの目的地としてもらうため、クリークマルシェや水辺で乾杯、クリークウォークなど、いろんなアイデアをいろんな方々と一緒に実行しながら、日常的に市民がクリークの普段使いができるよう、この場所ならではの賑わいづくりに取り組んでいきました。

2018年に10ヶ月間にわたり開催された佐賀県維新博覧会では、同様の水の歴史を持つオランダとの交流拠点（オランダハウス）に船着場が設置され、カヤックや和舟でのクリーク体験や、オランダから専門家を招聘したクリエイティブディスカッション、カヤック作りワークショップなどを開催し、官民連携で佐賀のクリーク文化を内外へと大きく発信する機会となりました。



裏十間川での和舟カヤック体験（2016年5月）



オランダハウス船着場（2018年3月-2019年1月）

■「活用」と「保全」の両立

一方、歴史的なクリークを魅力的に活用するにあたっては、水路内の保全活動も重要な課題となっています。クリークは流れが緩く勾配もほとんど無いため、少しずつ堆積していく土砂や水草の除去などを定期的に続ける必要があるのです。

佐賀市には春と秋の年2回、住んでいる地域の水路掃除をする風習があるのですが、最近では少子高齢化や関心の薄れなどから、年々クリークの手入れが行き届かなくなってきた現状があります。

そのため、さがクリークネットでは、街なか水路の“活用と保全”。つまり、クリークをみんなで使いながら、みんなで維持するための実践的な取り組みとして、世界自然保護基金（WWF）や環境系CSO、企業などと連携した環境レクチャーや水路清掃なども実施しています。

近年話題となっている、海洋プラスチック問題や街なかの貯水容量不足による内水氾濫の被害、ヒートアイランド現象、生物多様性など、SDGsの観点からも持続可能なクリーク文化を維持していくことは大切な問題であると考えています。



川掃除イベント（2018年7月）

■コロナ禍を経て次の展開へ

2020年から猛威を振るうようになったコロナウイルスは、地域コミュニティの醸成が大切だと言われるまちづくりの活動にとって致命的な出来事となりました。

これまでのようなクリークを活用したイベントはおろ

か、川掃除や会議に至るまで様々な行動が制限される事態となり、活動をしばらくの間がおよそ3年にわたり続くこととなりました。

しかし、ようやく今年から少しずつではありますが、新たな活動を再開することとしました。今年、実験的に1坪の床を市街地のクリーク（松原川）に設置する“KAWADOKOプロジェクト”を実施しています。これはクリークに1坪の床を置くことで、クリーク自体が目的地となり、そこがコミュニティや賑わいを生み出す装置として機能することを意図したものです。



KAWADOKOプロジェクト（2022年8月-10月）

設置期間中には、地元の学生が子供向けの水遊びのイベントを企画したり、お茶の先生が野点の会場にしたり、水上鍋会をやったりと、想像を超える面白い風景が生まれました。

今後も、この地で脈々と息づいてきた、クリークと共にある暮らしの文化を、より市民が魅力的に実感できるよう、いろんな方々と連携し、楽しみながら活動していきたいと考えています。皆さまも佐賀市にお越しの際は、ぜひ街なかの水路（クリーク）に目を向けていただけると幸いです。

あの日あの時-熊本地震 1 週間の日記



丹伊田 穰（熊本地域会）

4月14日(木)

AM7:00～PM3:30 中央病院にて2年ぶりの予約健康診断。異常なしとのこと。

PM7:00～PM9:30 健康を祝し主治医と友人5人で市内の焼鳥屋でテーブルを囲む。支払い済ませたころ突然に激しい地震。揺れが収まった頃表に出る。大勢の人出ありパニック状態。携帯電話は不通、タクシーも拾えない。友人と分かれ、しばし知合いのロシア料理店に寄る。女主人は散乱した店内でテーブルに伏せ泣いた。自宅にいた長男と携帯が繋がり迎えに来てもらい帰宅する。路面電車は街路に放置されていた。後日談、友人達は1時間かけて歩いて帰ったとのこと。自宅は散乱していたが寝る場所があり、別所帯の妹と次男家族、三男家族の安否確認し就寝する。

4月15日(金)

AM7:30起床、1階仕事場の状況確認、本棚等が倒れ被害大なるもパソコン等電子機器は正常に作動する。

AM9:00市役所に予定の書類を提出に行く。市役所の窓口は平常。帰りに建築士会の事務局に寄る。事務局の床は上階の給水管の破損で水浸し状態。パソコン、電話など通信手段が壊滅し復旧には1週間かかるとのこと。情報連絡の要としての事務局の連絡手段は個人の携帯電話のみ。

午後から所員の息子達と仕事場の片付けに入る。急遽新規本棚を購入し、あらかたの整理完了。明日からの仕事場はなんとかスタンバイする。PM11:00余震が続く中、普段使ってない3階のベットで独り就寝。

4月16日(土)

AM1:15頃突然激しい揺れと音で起される。ベットに胡座をかき大きく揺れる天井を睨む。倒壊の不安が一瞬よぎる中、コンクリートが弾性体であることを目の当たりにする。尿意を催すが家具類が転倒し足の踏み場がなく階段には行けない状況。しばらくして停電。窓を開け外に放尿しながら近隣や市街地方向を見る。街の明かりは平常で火の手は上がってない。向かいのマンションの住人達が車のヘッドライトの中、駐車場に集まっている。前の道路は墓石、ブロック塀が倒壊散乱して車がUターンしている。真っ暗な中タンスを乗り越えなんとか2階に降りる。家具食器類が散乱しているが家内は無事。仏壇の蝋燭を借り二人で座卓を前にしばし放心状態で過ごす。2階のベランダと1階の玄関のガラス戸を叩く音がある。近所の若者が安全確認に来てくれた。近所の皆さんは奥の駐車場に避難しているとのこと。

携帯電話が繋がり別所帯の妹、次男、三男夫婦の安全を確認する。電気が回復しテレビを起しニュースをみながら夜明け迄過ごす。長男は前日から大分出張であったが阿蘇の立野を迂回し無事帰宅出来るとのこと。本当に良かった。

AM7:00昨日片付けた1階の仕事場は手の付場もない壊滅状態。外に出ると多数の瓦が落ちている。友人達と携帯でお互いの状況を交わしながら少しずつ自宅と仕事場の片付け作業に入る。

震源地益城町に近い東区は特に震度が大きかったようだ。

PM6:00余震が続き第三波の恐れがある、一先ず今夜の過ごし方を家内、長男と家族会議をする。長男は県が準

備した避難所、大型展示場の駐車場での車内泊を、我々は自宅を選んだ。

4月17日(日)

AM7:30クライアントから要請のあった北区のスーパー店舗に向かう。裏道を抜け幹線である国道3号に入ると県外ナンバーのパトカー、消防車、行政と思われる多数の車両の隊列とすれ違う。夜を徹して熊本に下ったのだ。

築造年の古い店舗は建替の基本設計中であったが、国道側の外壁が崩落し危険な状態で即対応が必要である。オーナー立会いのもと施工会社を交え今後の応急処置と建替スケジュールを取決め帰宅する。

久留米在住の義理の妹夫婦が支援物資をもって高速道路を南下中と連絡あるが、植木インターを降りたところで追突事故に出会いタクシーで戻るとのこと。長男が向かい多量の飲料水、食料、ベビー用品等を受取る。ご近所にも水を配る。自宅、仕事場の片付け作業を続ける。上水道は断水状態。飲料水はあるがトイレに不自由する。トイレの水は加勢川まで汲みに行った。。3匹の家猫の内1匹が建物内で行方不明。

20日予定の建築士会韓国慶尚南道とのレセプション中止との連絡あり。

4月18日(月)

AM7:30別のクライアントから要請あった市内にある本社に向かう。途中国道57号バイパスは建物の倒壊と擁壁崩壊のおそれがある2ヶ所で車線が狭まり渋滞が酷い。社長以下全社員が建物の外に集まる中、建物を観る。複数棟の内、築造の古いRC造の3部分が崩壊している。電気保安技術者と数人で建物内に入る。持参した平面図を掲示し危険箇所を説明する。当面の対策と今後の

復旧に向けての緊急社内会議に参加する。何ヶ所かの白川に架かる橋が通行止めで酷い交通渋滞の中帰宅は夕方になった。

行方不明の猫ひょっこり現れる。家族一同笑う。

4月19日(火)

AM7:00起床、簡単な食事を済ませ片付け作業に入る。三男は応急危険度判定に益城町役場に向かう。YKKの荒木さんが来所、多量の飲料水を頂く。

昼過ぎ要請があり近くのスーパーマーケットの建物を観る。数カ所のブレースが破断しているが即倒壊はないと判断する。三男が戻り益城町の状況を聞く。木造住宅の倒壊が多く酷い状況とのこと。その後応急危険度判定士の人数は足りてるとの連絡あり。今必要なのは片付け作業のボランティアではないかと考える。パソコンを復旧シ夕方多量のゴミ出しをする。近くのゴミ集積所は満杯の状態。28日出席予定の建築士会菊地支部総会延期との連絡あり。

PM6:00 断水が続く。近くの銭湯も満員なので山鹿の温泉旅館に行き久しぶりに入浴する。温泉旅館には複数の県外からの応援部隊が宿泊していた。外食し帰宅する。

4月20日(水)

AM9:00片付け作業。やっとLANケーブルが復旧しネット繋がる。JIAからの連絡事項、知人からの多数のお見舞いメッセージを開く。

行政からの震災対策の会合や緊急講習会、やってくるボランティア団体への対応、クライアント、知人からの多数の建物相談等を確認し今後の対応スケジュールをたてる。

“ヘリコプター”ではなく【夢に向かっている私の気持ち】



藤本 孝行 （北福岡地域会）

空を飛びたいと思ったのが中学生の時、当時下宿屋で生計を立てていた祖母のところに、盆と正月に毎年挨拶に来る海上自衛隊員のNさんと陸上自衛隊員のKさんが、私に「た一坊将来どうするんだ」といわれ、「まだ決めてないんだったら、航空自衛隊がいいぞ、しっかり勉強してパイロットになれ」の言葉がきっかけだった。

40歳の時 軽飛行機の免許を取るべく北九州空港内にあった飛行訓練学校の入学申し込み書に書き込み中、妻から「飛行機の免許を取るんだったら、離婚だ」といわれ、断念。



訓練機前にて

還暦過ぎて（最高齢の民間ヘリコプターのパイロットを目指して）、再チャレンジ。まずは、東京にある飛行訓練学校の「テムコアアカデミー」で座学を1年間ズームで学び、学生VISAを取得し、その後米国で1～2年間行ったり来たりで訓練するも、3歩進んで2歩下がるという状況で思うように上手くならず。



現在のシェアリング機

2人乗りヘリコプターを購入し日本で訓練をすることになった。これがまた、良い教官に恵まれず（実は本人の怠慢）、ヘリコプターの維持費も馬鹿にならず売却し、4人乗りヘリコプターをシェアし、現在もなお訓練中である。その間学科の有効期限が2年間なので、2年毎に次こそはと思いながら学科の試験を4度受け合格するも、実



唯一本物のゼロ戦



自宅上空

地試験まで叶わず現在に至っている。

ヘリコプターも陸上用から水上用に変更し、水上用の試験を受けるべく頑張っている。（水のあるところであればどこでも着陸できるということ。）

毎年受ける航空身体検査が、これからの最難関になりつつある。身体検査は、脳神経内科の検査・診断、心臓の検査、四肢の検査、視力検査、聴力検査等の精密検査後申請書に検査結果のCDRを添付して、操縦訓練の許可を国土交通省の大臣判定を毎年受けながらの挑戦である。

現在は北九州ヘリコプターシェアリングクラブの事務局としてお世話をさせて頂いています。皆さんからよく「免許取って何するの」ってよく聞かれるが、ただ飛行免許を取りたいだけ。

気持ちが折れそうになるが、「夢に向かって」日本での最高齢ヘリコプターパイロットの受験生を目指している。まだまだ頑張れる。と思う。



上：呉港上空



右：操縦席
下左：訓練前点検 下右：訓練中





桑野 尚樹 (大分地域会)

この度、JIAに入会しました桑野尚樹と申します。

『建築家』という職域があることを知ったのは20代後半の頃です。当時は大分県内の建設会社に勤め、設備設計の工事・設計に従事していました。先輩の紹介で+Aという若手建築家の会に入会し、同時期に建築家の方の設計した建物の設備工事に携わらせていただいたことがきっかけです。それから県内や県外の建築家の作品(建築物)を積極的に見に行くようになりました。なかなか考えが及びませんが、どういう意図でこの建物が建てられたのか、その建物の設計者になったつもりで頭の中で色んな妄想をして、楽しんだりしています。意匠設計の考え方は非常に奥深く、専門分野ではなかった私にとって理解しにくいことも多くあります。その中で少しでも理解したいと思いながら、設備設計を行っています。『建築家』というと、一般的に意匠という印象が強く感じられます。私は設備設計の立場で皆様と融合し、よい建築ができるのではないかと胸を膨らませています。近年ニーズが急速に高まっている、ZEB ZEHにも力を入れています。設備設計の立場ならではの視点から『建築設備家』として『建築家』の皆さんに助力できるような活動ができればと考えております。まずは積極的に例会に参加し、たくさんの情報を見聞きすること、そして皆様と共にお酒を酌み交わしながら、多くを学ばせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



吉田 一輝

九州大学芸術工学部芸術工学科環境設計コース3年

私この度JIA九州支部学生部会長を務めさせていただくことになりました、九州大学芸術工学部芸術工学科環境設計コース3年の吉田一輝と申します。

これまでJIA九州支部学生部会は、デザインレビューの実行委員としての役割を主として活動を行ってきました。しかし、それではデザインレビューでせっかく築いた学生間や学生とJIA会員の方々との繋がりがデザインレビューを終えた後に希薄になってしまうということが課題としてありました。そのため、今年からはデザインレビューの活動との関わりは継続しつつ、よりJIA九州支部学生会としての活動に力を入れていくこととなりました。今後ともJIA九州支部学生会を宜しく願い致します。

私が建築を志したきっかけですが、今振り返ってみるとそれは、大学入学が決定した後の春休みにあったと思います。それまではただ漠然と建築家になりたいとしか考えていなかった私ですが、いざ大学入学が決まると新型コロナウイルスの影響により外出自粛を余儀なくされました。そして、今まで当たり前だと思っていた暮らしはこんなにも簡単に当たり前ではなくなるのだということを感じるとともに、人々が生活をするための場をつくる建築にはこの問題を解決できる力があるのではないかと強く思いました。そこから、私は建築に興味を惹かれ、建築家を志しました。

私たちの世代の建築学生は、大学に入り建築を学ぶ直前にこの新型コロナウイルスによる暮らしの変化を経験したことで、今までの建築のあり方に疑問の目を持ちやすくなっている様に感じます。そのため、今ある建築のあり方を全て鵜呑みにするのではなく、常に疑問の目を持ちながらこれからの私たちの暮らしにはどのような建築があるべきなのかを考えていきたいです。

林業・木材業界の一員としての思い



早田 政男（長崎地域会協力会）

J I A九州支部及び同長崎地域会におかれましては日頃より御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社は木材販売、木造建築に関わる業務を主に熊本県内で展開しておりますが、長崎県の離島における公共や民間の木造建築物に携わらせて頂いたのが御縁で、2018年に長崎地域会に入会致しました。入会して未だ日が浅い上、ここ数年のコロナ禍もあり、なかなか活動に参加出来ていない状況にあります。協力会員の一企業として皆様のお役に立てずにいることは不甲斐ない気持ちであります。今後、新型コロナウイルスが終息し、以前のような会合等が再開されれば積極的に参加したいと思っています。

さて、平成22年の「公共建築物における木材の利用促進に関する法律」の施行や、令和3年10月1日「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（通称：都市（まち）の木造化推進法）の一部改正により、法律の対象が公共建築物から建築物一般に拡大されたことで、木造建築物への情報が広く認識されるようになったことと思います。しかし、皆様ご承知のように令和3年にウッドショックが起これ、国内への外材の輸入が滞り、国産材に置き換えられる事態になり、建設請負業の方はもとより林業関係者にも大混乱を招きました。まだその影響は少なからず残っておりますが、ウッドショックをきっかけに国産材が改めて見直されましたことは、この業界に携わる者として最大のピンチが絶好のチャンスでもあったと感じております。

戦後、植栽された国内の山林が伐採期を迎えたことも

あり、国産材の調達は準備が整っている状況とも言えます。計画的な伐採を行えば蓄積も十分にあり、供給が不足するという事はないと思っております。今後は国産材の安定供給に国をあげて対応して頂き、木材が環境にやさしく持続可能な建築素材として再認識されたいと考えています。一方で九州各県の貴重な森林資源を循環利用し、中山間地域の雇用を確保すべく、業界各社は日々努力を重ねてまいりましたが、中小零細形態が多く、厳しい環境が続いております。

持続可能な開発目標（SDGs）の中にもあります「持続可能な森林の経営」においても地場の木材が活用されることは誰もが願うことではないでしょうか。九州には多くのJ A S認証工場（製材等）がありますので、各社の製品が適材適所で採用され、更なる需要拡大が進むことを望んでおります。

そのためには今後、J I A九州支部正会員の皆様、同長崎地域会の会員・協力会員の皆様とさらに共に活動を行い、林業・木材業界に限らず積極的に交流していけたら幸いに存じます。

今後とも御指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。（株式会社 工芸社・ハヤタ）

| 報告事項 | | | |
|---|--------------|------------------------------|--------|
| ③ <常設委員会> 活動報告 | | | |
| 1 | 総務委員会 | 下山道男 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明 | |
| 9/12 第3回委員会 ・入退会審査 ・JIA個人情報保護規程の見直しについて ・東海支部学生会員入会申込書修正案について ・登録建築家マニフェスト、新リーフレットについて | | | |
| 苦情対応WG : 報告事項なし | | | |
| 知財WG : 報告事項なし | | | |
| 2 | 財務委員会 | 作田耕一朝 | |
| 理事会資料による | | | |
| 3 | 職能・資格制度委員会 | 佐々木 信 | 別添資料 1 |
| 9/22 第3回委員会開催 ・沖縄大会プレイベントについて ・作業班方針発表 (あ.資格・認証コンセプトの強化... 南+野々川 い.沖縄大会...藤沼+本庄 え.J5+各支部プロモート...佐々木+大田 う.民間ライセンス研究...松尾+吉田 え.UIAアコート ・カイトラインの日本における適用...清水+藤沼 お.HPの整理...谷+鳥羽) | | | |
| 10/4 沖縄大会イベント開催 「沖縄で建築家を考える」 45人参加 (オンライン) | | | |
| 4 | 業務委員会 | 前田哲 建賠WG:田中康裕 | |
| 業務報酬基準検討委員会が再開した。(中間報告/以下サマリー) | | | |
| ●「9/29」第7回検討委員会 | | | |
| ・分析方針・スケジュールが報告された。 | | | |
| ・告示は年度明けを目指している。 | | | |
| ・やはり心配通りサンプル数が少なく、その影響が出ている。 | | | |
| ・住宅の面積相関関係はやはり低く、他の視点が必要になりそう。 | | | |
| ●「10/6」国土交通省より意見照会資料配布 | | | |
| ・集計資料に基づく、主な課題に関する意見照会である。 | | | |
| ・日数が大変限られることから、コアメンバーで意見書は作成した。 | | | |
| ・多くの課題がサンプル数の少なさが原因となっていますので、増やす方策を提案している。 | | | |
| ●次回の検討委員会は11月7日。 | | | |
| 議論の焦点が定まってきたタイミングで、改めてJIA業務委員会を開催し報告する予定。 | | | |
| 5 | 広報委員会 | 川津悠嗣 支部は川津悠嗣、有吉兼次 | 別添資料 2 |
| 本部会議は欠席。ブルテン発行準備中。近日中に発行予定。 | | | |
| 6 | 教育委員会 | 田中康裕 | |
| 報告事項なし | | | |
| 7 | 国際委員会 | 水本浩二 | |
| ・ 9/30 第6回国際委員会 (JIA沖縄大会、ARCASIA、ゴールドンキューブ賞、EAST-EAST(リトアニア交流)ほか) | | | |
| ・ 9/20、9/26、10/3、10/11、10/17 JIA沖縄大会IPF準備会議 | | | |
| ・ 10/28 第7回国際委員会 (IAB大会、ASA~UDWS、UIAコペンハーゲン大会展示、ゴールドンキューブ賞ほか) | | | |
| 8 | CPD評議会 | 田中康裕 | |
| 9月30日、10月28日 評議会開催 | | | |
| 9 | 建築家資格制度実務委員会 | 佐々木寿久 | |
| ・ 9/12 建築家資格制度実務委員会 合同委員会 | | | |
| ・ 10/27 建築家資格制度実務委員会 合同委員会 | | | |

| 報告事項 | | | |
|---|---------------------------------|-----------|-------------------------------|
| ④ <全国会議> 活動報告 | | | |
| 1 | JIA環境会議 | 古森弘一 | 伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳 |
| 8月1日18:00～ 第一回JIA環境会議 9月26日18:00～ 第二回JIA環境会議 10月20日13:30～ JIA大会2022沖縄にて環境会議:全体会議参加 | | | |
| 2 | JIA保存再生会議 | 柴田真秀 | 別添資料 3 |
| 10/21 10月拡大定例会議開催 | | | |
| 2-2 | JIA保存再生会議 文化財修復塾 | 鯉坂徹・下山 道男 | |
| 9/14第3回WEB会議 ・各支部の活動と予定 ・JIA-HAサロンの開催 ・2022年度履修状況報告 ・鹿児島HMとの協定について ・R4文化庁助成(奈良市内域)について | | | |
| 2-3 | JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG | 松島逸人 | |
| 報告事項なし | | | |
| 3 | JIAまちづくり会議 | 松島逸人 | |
| 9/27 ZOOM開催。 全国の活動実績の報告等。 今後の活動概要の確認、意見交換。 | | | |
| 4 | JIA災害対策会議 | 林田直樹 | |
| 10/12に沖縄大会のイベントで「何海トラフ地震に際して必要な全国ネットワークを考える」という題目でプレイベントが開催されました。 | | | |
| 5 | JIA建築相談連携会議 | 有吉兼次 | |
| 建築家大会前にメールにて各支部の建築相談実施状況の情報交換をメールにて行った。北海道支部は相談は1件もない状態。東海支部今年度(4月以降)は今日現在で4件(愛知4、岐阜0三重0静岡0)と、例年の半分以下となりそうなペースです。四国支部3年で2件。近畿支部2019年度:11件2020年度:2件2021年度:5件2022年度(現在):8件、九州支部は別紙のように報告を行った。 | | | |
| 5-2 | JIA九州支部建築相談委員会: | 有吉兼次 | |
| 9月12日から10月31日は相談業務はありません | | | |
| 6 | 住宅等連携会議 | 佐々木寿久 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・9/14 住宅連携会議 ・9/15 住宅連携会議 ・9/29 住宅連携会議 ・10/6 住宅連携会議ウェビナー「建築家、コストをデザインする」 ・10/13 住宅連携会議 | | | |
| 報告事項 | | | |
| ⑤ <その他> | | | |
| 1 | 全国学生設計コンクール実行委員会 | 田中康弘 | |
| 報告事項なし | | | |
| 2 | 職責委員会 | 佐々木 信明 | |
| 報告事項なし | | | |
| 3 | 懲罰審査委員会 | 川津悠嗣 | |
| 報告事項なし | | | |
| 報告事項 | | | |
| ⑥ <特別委員会> 活動報告 | | | |
| 1 | オンライン_リモート対応や環境整備 に特化した特別委員会 | 村上明生 | 別添資料 1 |
| 報告事項なし | | | |
| 2 | カーボンニュートラル特別委員会 | 古川保 | |
| カーボンニュートラルのマニフェスト集をつくる。会員から募集するが、締め切りは来年の1月31日。主旨文は、沖縄大会において袴田会長が発表する。今回、特別委員会の委員10名が試しにマニフェストを試験的作成して発表した。 | | | |
| 3 | UIA国際マニフェスト・リレー 特別委員会 | 下山 道男 | |
| 報告事項なし | | | |

支部事業委員会報告

教育支援委員会

| | | | |
|---|--|-------|--------------|
| 1 | 建築塾WG | 佐々木寿久 | 開催地熊本担当：林田直樹 |
| | 報告事項なし | | |
| 2 | デザインレビューWG | 池浦順一郎 | |
| | 10月26日に会議を行い、学生実行委員の発足、今後のスケジュールについて協議を行った。 | | |
| 3 | DR高校生レポーターWG | 重田 信爾 | |
| | 報告事項なし | | |
| 4 | 建築家派遣（エコルサポート） | 福田 哲也 | |
| | 6月から続いている東住吉小学校のエコルサポートの最終模型製作を、10月4日と14日の2日間にわたって行った。 | | |

活動支援委員会

| | | | |
|---|---|-------|--|
| 1 | 収益事業WG | 川津 悠嗣 | |
| | 報告事項なし | | |
| 2 | JIAサポートWG | 川津 悠嗣 | |
| | 報告事項なし | | |
| 3 | 木活（モクカツ）WG | 松島 逸人 | |
| | 9/23 スタートアップ会議を開催。 来年度の事業へ、活動の概要について意見交換。 今後準備を進めて行く。 | | |
| 4 | 25年賞WG | 下山 道男 | |
| | 熊本「熊本県立美術館」、鹿児島「霧島音楽ホール」現地審査日程調整中 | | |
| 5 | 九州建築新人賞WG | 松山 将勝 | |
| | 11月7日にコアメンバーによる会議開催予定 | | |
| 6 | ケンバイWG | 田中康裕 | |
| | 9月26日、10月31日 ワーキング開催 | | |

| 報告事項 | | | |
|----------------|--|----------|-------------------------------|
| ③ <常設委員会> 活動報告 | | | |
| 1 | 総務委員会 | 下山道男 | 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明 |
| | 報告事項なし | | |
| | 苦情対応WG : 報告事項なし | | |
| | 知財WG : 報告事項なし | | |
| 2 | 財務委員会 | 作田耕一朝 | |
| | 11月15日 集合形式にて開催 助成金の審査 | | |
| 3 | 職能・資格制度委員会 | 佐々木 信明 | |
| | ・11/29第5回委員会 第1回理事懇談会状況報告(理事懇談会への意見書について(協議)) 登録建築家マニフェスト及び登録建築家リーフレットについての今後の対応 | | |
| 4 | 業務委員会 | 前田哲 | 建賠WG:田中康裕 別添資料 1、別添資料 2 |
| | ・12/7委員会開催 業務報酬基準改定検討会の流れにつて 別添資料 1 第8回業務報酬基準検討委員会(11/7)での資料、10月までの実態調査結果を踏まえた課題の抽出資料 別添資料 2 | | |
| 5 | 広報委員会 | 川津悠嗣 | 支部は川津悠嗣、有吉兼次 |
| | 11月7日にブルテン2022年11月号発行済。12月末ブルテン2022年12月号発行予定 | | |
| 6 | 教育委員会 | 田中康裕 | |
| | 11月4日委員会開催 | | |
| 7 | 国際委員会 | 水本浩二 | |
| | 報告事項なし | | |
| 8 | CPD評議会 | 田中康裕 | |
| | 11月25日委員会開催 | | |
| 9 | 建築家資格制度実務委員会 | 佐々木寿久 | |
| | ・11月8日 資格制度委員会合同委員会会議開催 1. JIA沖縄大会2022プレイベント(十大会の様子)の報告 1.2 マニフェスト ならびにリーフレットへの理事会(10/7)の反応、および理事懇談会(11/21)に向けての対応と 今後への展望 その他 作業班からの報告・協議 | | |
| 報告事項 | | | |
| ④ <全国会議> 活動報告 | | | |
| 1 | JIA環境会議 | 古森弘一 | 伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳 |
| | 第1回JIA環境会議8/1 第2回JIA環境会議は9/26 第3回JIA環境会議は10/20 第4回JIA環境会議は12/1(予定) | | |
| 2 | JIA保存再生会議 | 柴田真秀 | |
| | 報告事項なし | | |
| 2-2 | JIA保存再生会議 | 文化財修復塾 | 鯨坂徹・下山 道男 |
| | 報告事項なし | | |
| 2-3 | JIA保存再生会議 | 松島逸人 | |
| | 近現代建築物緊急 | 調査ユニットWG | |
| | 報告事項なし | | |

| | | | |
|--|-----------------------------|-------|--|
| 3 | JIAまちづくり会議 | 松島逸人 | |
| 報告事項なし | | | |
| 4 | JIA災害対策会議 | 林田直樹 | |
| 11/21 災害対策会議 ・ JIA BCP見直し ・ 災害ネットワーク作成→JIA本部ホームページ内に災害時連絡先や資料をUPする方向で検討中 | | | |
| 5 | JIA建築相談連携会議 | 有吉兼次 | |
| 報告事項なし | | | |
| 5-2 | JIA九州支部建築相談委員会： | 有吉兼次 | |
| 11月1日から12月4日は下記の相談対応を行いました。 ○10月27日 福岡 一般 25年前に新築した住宅の火災保険更新のため、省令準耐火構の判定が可否。 ○11月10日 福岡 一般 築30年RC造7F26戸の分譲マンションの大規模改修工事の設計監理者をJIA会員にお願いしたい、11月17日地域会会員に向けて募集案内を送付。 ○11月10日 福岡 一般 新築の住宅の見積書をHMより受け取ったが当初の見積より金額が上がっており納得ができないので第三者の意見をうかがいたい。 ○11月26日 福岡 建築相談室定例報告会10名参加 忘年会8名参加 | | | |
| 6 | 住宅等連携会議 | 佐々木寿久 | |
| 報告事項なし | | | |
| 報告事項 | | | |
| ⑤ <その他> | | | |
| 1 | 全国学生設計コンクール実行委員会 | 田中康裕 | |
| 11月16日委員会開催 | | | |
| 2 | 職責委員会 | 松山将勝 | |
| 報告事項なし | | | |
| 3 | 懲罰審査委員会 | 川津悠嗣 | |
| 報告事項なし | | | |
| 報告事項 | | | |
| ⑥ <特別委員会> 活動報告 | | | |
| 1 | オンライン_リモート対応や環境整備に特化した特別委員会 | 村上明生 | |
| 報告事項なし | | | |
| 2 | カーボンニュートラル特別委員会 | 古川保 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候風土適応住宅は建築士会が主導で進められています。九州も各地で進んでいます。長崎だけは、伝統構法の大工が少ないことで、作成を躊躇していました。 ・ 土曜日に、九州のまちづくり委員会は人吉であり、指山副会長が長崎でもやりたいという意思を示されました。 ・ 行政との関係では、建築士会がリードして、JIAも協働した方がスムーズにことが運びます。国の制度はメニュー表があり、所管行政庁がその中から選択するという内容です。 ・ 気候風土適応住宅は日本の建築文化を省エネ法から守るという制度です。JIAの会員のなかで、特に日本の建築に興味がある方はいらっしゃいませんか。JIA会員の総話の必要はありません。今後Zoom会議を開きますので、参加頂き意見を聞きたいと思います。(最初だけ私は参加します) ・ 行政は偏った団体では駄目と言われるので、士会、JIA、事務所協会に対応ですが、住宅に限るので士会、JIA、だけでもよいと思います | | | |
| 3 | UIA国際マニフェスト・リレー特別委員会 | 下山 道男 | |
| 報告事項なし | | | |

支部事業委員会報告

教育支援委員会

| | | | | |
|---|-----------------------------------|-------|--|--------|
| 1 | 建築塾WG | 佐々木寿久 | | |
| | 報告事項なし | | | |
| 2 | デザインレビューWG | 池浦順一郎 | | |
| | 11月9日実行委員会議 | | | |
| 3 | DR高校生レポーターWG | 重田 信爾 | | |
| | 11/2 DR実行委員長の決定等メール連絡、11/30 メール協議 | | | |
| 4 | 建築家派遣（エコルサポート） | 福田 哲也 | | 別添資料 3 |

活動支援委員会

| | | | | |
|---|--|-------|--|--|
| 1 | 収益事業WG | 川津 悠嗣 | | |
| | 報告事項なし | | | |
| 2 | JIAサポートWG | 川津 悠嗣 | | |
| | 報告事項なし | | | |
| 3 | 木活（モクカツ）WG | 松島 逸人 | | |
| | 11/25 大分県木の匠事業参加 11/26 フジイブルワリー見学会&小国町説明会 | | | |
| 4 | 25年賞WG | 下山 道男 | | |
| | 12/10 鹿児島現地審査予定 | | | |
| 5 | 九州建築新人賞WG | 松山 将勝 | | |
| | 報告事項なし | | | |
| 6 | ケンバイWG | 田中康裕 | | |
| | ・10月31日委員会開催 11月21日委員会開催 ・12月5日セミナー開催 | | | |

活動スケジュール

○10月

- 6日：児童絵画展審査会（建築士事務所協会・JIA賞）
- 20～22日：全国大会in沖縄
- 29日：児童絵画展表彰式（建築士事務所協会・JIA賞）

全国大会in沖縄

■日時：令和4年10月20日木曜日～22日土曜日

■場所：沖縄

■参加：9名

■報告事項

- ・3年ぶりの全国大会開催
- ・首里城の輪郭～失われたことでもえてくるもの～と題し、沖縄本土復帰50周年の記念すべき年に全国大会が開催。
- ・クルージングウエルカムパーティや、ハーバービューホテルでレセプションパーティが行われ、沖縄で集う仲間との交流が生まれた。
- ・メインシンポジウムでは、香山壽夫氏の「失われたことでもえてくるもの」を掘り下げた講演は見事であった。古谷誠章氏のコーディネート力にも脱帽だった。



児童絵画展表彰式（JIA賞）

■日時：令和4年10月29日土曜日 10:00-12:00

■場所：コムシティこどもの館（黒崎）

■参加：塩釜

■報告事項

- ・建築士事務所協会主催の児童会絵画展でJIA賞を選出し、表彰式に参加した。



活動スケジュール

○11月

- 4日：支部役員会リモート
- 11日：福岡県設計4 団体会議
- 12日：前田圭介建築セミナー
- 14日：末光弘和SUEP講演会（TOTOミュージアム）
- 22日：北福岡地域会第8回役員会+慰労忘年会



前田圭介建築セミナー

- 日時：令和4年11月12日土曜日 15:00~17:30
- 場所：九州工業大学 製図室
- 参加：7名+学生35名
- 報告事項
 - ・前田圭介氏を招き講演会を開催した。
 - ・日韓学生WS入賞チーム（九州工業大学、日本文理大学、九州産業大学）が再度プレゼンを行い、前田圭介氏に講評をしていただいた。・木村吉成氏とは異なる切り口の講評で、学生にとってまたとない機会となった。



北福岡地域会第8回役員会

- 日時：令和4年11月22日火曜日 18:30-20:00
- 場所：J-フィールド303号
- 参加：熊谷、三迫、永澤、高濱、杉野、戸村、塩釜
- 報告事項
 - ・九州支部大会・建築展24日韓合同学生ワークショップ決算報告
 - ・前田圭介講演会決算報告
 - ・遊休財産についての保有制限について協議
 - ・次年度予算の支部提出について



福岡地域会役員会 (第5回)

- 日時：2022年10月29日（土曜日） 17：00～18：30
- 場所：電気ビル 共創館カンファレンスE
- 参加人数：11名
- 確認事項
第4回役員会議事録確認
- 審議事項 忘年会招待者について
- 協議事項
1. 忘年会について
2. デザインレビューについて
3. 2023年度の総会、懇親会会場について
4. 福岡建築倶楽部新年の集いについて
- 報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告
4. 企画運営室報告 5. その他



役員会風景

福岡地域会役員会 (第6回)

- 日時：2022年11月26日（土曜日） 16：30～18：15
- 場所：八仙閣
- 参加人数：13名
- 確認事項
第5回役員会議事録確認
- 審議事項
- 協議事項
1. 遊休財産の保有制限について
2. 第7回福岡地域会役員会日程変更について
3. 2023年度予算について
4. その他
- 報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告
4. 企画運営室報告 5. その他



第6回福岡地域会役員会の様子

2021JIA福岡地域会忘年会

2022年11月26日、博多にある八仙閣にて、福岡地域会忘年会が協力会と合わせて56名で行われました。コロナ第8波の気配がありましたが支部長、地域会長の挨拶や西井協力会会長が計画された恒例のPDも好評で盛会となりました。また新入会員の塚川謙さんの自己紹介もありました。



福岡地域会忘年会

建築相談

10月から11月4日は下記の相談対応を行いました。
○10月27日 福岡 一般 25年前に新築した住宅の火災保険更新のため、省令準耐火構の判定が可否。 ○11月10日 福岡 一般 築30年RC造7F26戸の分譲マンションの大規模改修工事の設計監理者をJIA会員にお願いしたい。11月17日地域会会員に向けて募集案内を送付。
○11月10日 福岡 一般 新築の住宅の見積書をHMより受け取ったが当初の見積より金額が上がっており納得ができないので第3者の意見をうかがいたい。
○11月26日 福岡 建築相談室定例報告会10名（永田、加藤、月形、樋口、武本、高司、川津、豊田、今井、有吉）参加 忘年会8名参加



忘年会での新入会員自己紹介

■ 2022まちづくり総合住宅フェア

■日時 2022年10月22日(土)

■報告事項

睦設計の松本会員による「壱岐に日本初の無垢製材あらかし木造4階建てビル(モクヨンビル)への挑戦」と題して登壇しました。



■長崎県建築士事務所協会・県林政課による講習

■日時 2022年11月17日(木)

■報告事項

睦設計の松本会員が「睦モクヨンビル講習会」として登壇しました。プロジェクトの立上のきっかけからその想い、設計・施工の詳細について講演を行った。



■ モクヨン現場施工見学会

■日時 2022年11月20日(日)

■報告事項

睦設計による「睦モクヨンビル」の現地施工見学会を開催

■参加者 午前の部：27名 午後の部：21名



■ JIA長崎地域会 第2回 役員会

■日時 2022年11月22日(火) 17:00~

■出席 佐々木、松本、一丸、平松、田中
WEB形式にて役員会を開催

■報告事項

- 支部役員会の報告及び検討事項について
- 支部役員会の交通費について
- 遊休財産について
- 今後の長崎地域会活動について
- 来年の2月頃に建築家セミナー開催の予定



■2022年度 第4回例会

日時 2022年8月16日（火） 19:15～20:30

場所 ZOOM開催

出席者 23名

JIA会員 出席 7名、委任状 7名、欠席 7名（14/21）

協力会員 9名

議事録作成者 坂本 肇

議事録署名人 松田 周作

◆内容

1.確認事項 高橋幹事

出席者人数の確認を行った。

会員数21名の内、出席者総数14名（委任状による出席者数7名含む）、欠席者7名により、例会が成立する。

2.報告事項

○会長挨拶 重田会長

例会企画がありました。コロナの状況を踏まえZOOMでの開催としました。今後はコロナを見据えながら例会を開催したい。

後半では公演を聞いていただけたらと思います。

○支部関係

①支部大会の件（小倉、9/23-24-25）対面での開催予定だが、

月末にオンラインか対面で行うか検討する。現在3名参加

②建築塾の件（阿蘇、9/16-17）今月20日参加者締切。

③全国大会の件（沖縄、10/20-21）現在のところ対面での開催予定。

④九州建築新人賞の件（2023年度、49歳以下予定）

詳細は決まっていないが来年度に行う計画。

対象は会員、非会員は問わず49歳以下。

○地域会関係

特にありません。

3.その他

特にありません。

4. 例会企画

講演「大分県の城郭～縄張りとは垣～」

合同会社FUKUO代表 木村真琴様



- ①お城の歴史
- ②大分県内の城について
- ③縄張り・石垣の見方（岡城を例にして）



技法によって築かれた年代が解る

| 石垣の分類 | 野面積 | 打込接 | 切込接 |
|-------|-----|-----|-----|
| 布積 | | | |
| 乱積 | | | |

5.閉会 竹宮副会長

竹宮副会長より閉会の辞がありました。

■次回2021年度 第3回例会

日時：2022年9月20日（火） 19：15（19：00開場） 予定

場所：未定（後日連絡）

例会企画：未定（後日連絡）

■2022年度 第5回例会

日時 2022年9月20日（火） 19:15～20:00

場所 ZOOM開催

出席者 12名

JIA会員 出席 12名、委任状3名、欠席 6名（15/21）

協力会員 11名

議事録作成者 松田 周作

議事録署名人 常廣 竜也



◆内容

1.確認事項 高橋 大介 幹事
出席者人数の確認を行いました。会員数21名の内、出席者総数15名（委任状による出席者数3名含む）、欠席者6名により、例会が成立することの宣言を行いました。

2.会長挨拶 重田 信爾 会長

3.報告事項 重田 信爾 会長

- ・支部役員会関係
 - ①建築塾終了の件
 - ②支部大会開催の件
 - ③全国大会の件
- ・大分地域会関係
 - ①木の匠育成事業の件

4. 例会企画

「大分市西部海岸地区憩い・交流拠点設備整備事業について」

高橋 大介 幹事



5.閉会

竹宮副会長

竹宮副会長より閉会の辞がありました。



■2022年度 第6回例会

日時 2022年10月18日（火） 19:15～19:45
 場所 J:COMホルトホール大分 303会議室
 出席者 10名
 JIA会員 出席 10名、委任状 7名、欠席 4名（17/21）
 協力会員 16名
 議事録作成者 足立心也
 議事録署名人 山崎真司

◆内容

1.確認事項 高橋幹事
 出席者人数の確認を行った。
 会員数21名の内、出席者総数17名（委任状による出席者数7名含む）、欠席者4名により、例会が成立する。

2.会長挨拶 重田会長
 3.報告事項 重田会長
 ○2022年「建設事業関係功労者等 国土交通大臣表彰」
 住宅・建築事業関係を受賞された石井会員に九州支部からのお祝い金と花束の贈呈を行いました。



○支部役員会の報告
 9月23日@北福岡会 重田会長、衛藤会員、三浦会員、後藤（靖）会員の4名が出席しました。
 9月24日には日韓学生プレゼンワークショップが開催され、大分からは日本文理大学が参加していました。

○大分地域会の報告
 木の匠育成事業の参加者を募集しています。



5.例会企画
 「TOTO 住宅・パブリック新商品のご案内」
 TOTO(株) 大分営業所 小西様
 TOTO新商品を映像を交えてご紹介いただきました。

質疑
 [山崎会員]
 大分ショールームの展示は新商品と入れ替えていますか？
 → 8月発売分はすでに入れ替え済みです。



6. 閉会 竹宮副会長
 竹宮副会長より閉会の辞がありました。

懇親会
 例会終了後、懇親会を行いました。

■次回2022年度 第7回例会

日時：2022年11月15日（火） 19:15
 場所：未定（後日連絡）

■令和4年度木の匠育成事業 第1回 見学会

日時 2022年11月10日（木） 13:00～17:30
 場所 フジイブルワリー（豊後大野市千歳町）
 出席者 19名 （講師2名含む）

大分県では、豊富で充実した森林資源を積極的に活用し、林業・木材産業の活性化と健全な森林の維持増進を図ることを目的に、地域の木材を使用したの住宅や店舗など幅広い木造建築を推進する建築士等（「大分県木造マイスター」）の育成に継続的に取り組まれています。

今年度は既に大分県木造マイスター講座を受講・修了している方を中心に、実作見学を交えたスキルアップ講座として開催いたします。

第1回では、豊後大野市に今年9月に竣工した『フジイブルワリー』を見学しました。こちらは長さ9mの材料を使った木造・非住宅建築となっており、その設計監理や材料選定・調達等について、設計者と木材供給者からのお話をお聞きしました。

◇スケジュール、内容

13:00 集合・出発（貸切バスに乗り合わせて移動）
 13:45 現地到着
 13:45～14:30 施設概要説明

ミヅウカパートナーシップ / 日本文理大学 三浦逸朗会員

三浦会員のこれまでの木や木造建築への取り組みをお話しいただいた上で、フジイブルワリーの設計監理時の工夫やご苦労をお聞きできました。また、今年度が最終年となる木の匠育成事業に関連して、これまでの事業の振り返りやこれからの活用についてもお話しいただきました。

これまで真摯に木・木造建築に取り組まれてきた三浦会員の話は、非常に興味深く、我々参加者の刺激にもなりました。



14:30～15:00 施設見学



15:00～15:40 木材調達について

小国町森林組合 代表理事組合長 北里栄敏

フジイブルワリー建築において木材を提供された小国町森林組合 北里組合長から、その木材調達についてお話しいただきました。また、非住宅木造建築の先進県でもある小国町のこれまでのそして現在の取り組み、若手後継者育成のことなど、幅広いお話をお聞きできました。

杉生産地としての確固たる実績を踏まえたお話は、参加者にとっても初めて知ることや、非常に興味を抱かせるもので、大変いい話を拝聴できました。



15:40～16:30 （フリー）

少しフリーの時間を設けました。評判のクラフトビールを飲みながら空間を感じて頂いたり、さらに詳細まで施設見学をされたり、お土産にクラフトビールや焼酎を購入されたりと、参加者それぞれに思い思いの時間を過ごして頂きました。

16:30 出発

17:30 集合場所にて解散

◇まとめ

9mの製材品を利用した建築の工夫やご苦労、川上（山、林業）のお話やこれからの木・木造建築のこと等、非常に幅広いお話をお聞きでき、さらに木造の心地よい空間を体験できました。参加者の皆さんと、大変有意義な時間を共有できたと思います。

■2022年度 第7回例会

日時 2022年11月15日（火） 19:15～20:30
 場所 J:COMホルトホール大分 303会議室
 出席者 16名
 JIA会員 出席7名、委任状9名、欠席5名（16/21）
 協力会員8名、大分大学 今田氏
 議事録作成者 一宮会員
 議事録署名人 松田会員

◆内容

1.確認事項 【高橋幹事】
 出席者人数の確認を行った。
 会員数21名の内、出席者総数16名（委任状による出席者数9名含む）、欠席者5名により、例会が成立する。
 2.会長挨拶 【重田会長】
 3.報告事項 【重田会長】
 ○全国大会の報告
 本土復帰して50年、建築家協会沖縄支部創立25周年を記念する年に3年ぶりJIA建築家大会が沖縄で盛大に開催され、基調講演や首里城火災後の再建状況など報告がありました。

○支部役員会の報告 【竹宮副会長】
 ・九州支部会議（WEB会議）が11月15日に開催され、会議内容の報告がありました。報告内にあった遊休財産の保有制限については衛藤会員より意見がありましたので、地域会役員で議論を重ねた上で支部へ報告させて頂く事となりました。

○大分地域会の報告 【重田会長】
 ・木の匠育成事業について 11/11、11/25
 11月10日に、三浦会員設計によるフジイブルワリー見学会が行われた報告と、11月25日に行われる、昭和電工武道スポーツセンターの見学、最新の木造建築・木材についての座学の説明がありました。

・「ネオ・ダダの逆説 反芸術と芸術」出版記念&アートプラザ登録有形文化財（建造物）指定記念講演イベントと大分市美術館菅章館長 × 日本文理大学副学長島岡成治教授 対談について 【松田会員】
 日本建築家協会（JIA）も共催しているイベントの説明がありました。
 日時：2022年11月17日（木） 18：00～
 場所：アートプラザ アートホール



○その他 【重田会長】

大分地域会協力会員へ(株)BeCK様より入会申込があった件について、大分地域会の承認を受け、現在九州支部に審査をお願いしている報告がありました。



4.例会企画 【重田会長】
 ○2022年度 トピタテ留学JAPAN報告会
 大分大学 今田武様によるイタリアへの留学報告がありました。温泉の泥（ファンゴ）の勉強をされ、地元大分別府の温泉とイタリアの温泉の利用方法や意識の違い、ファンゴの利用方法など説明されました。



6. 閉会 【竹宮副会長】
 竹宮副会長より閉会の辞がありました。

■次回2022年度 第8回例会

日時：2022年12月20日（火） 17:15
 場所：未定（後日連絡）

■令和4年度木の匠育成事業 第2回 講座

日時 2022年11月25日（金）
 （見学会）10:00～11:30（座学）13:00～17:30
 場所 （見学会）昭和電工武道スポーツセンター
 （座学）昭和電工ドーム 212会議室+ZOOM
 出席者 （見学会）13名+ガイド3名
 （座学）24名（対面17名+ZOOM7名）

11月10日開催の第1回に続き、既に大分県木造マイスター（地域の木材を使用しての住宅や店舗など幅広い木造建築を推進する建築士等）の講座を受講・修了している方を中心に、実作見学を交えたスキルアップ講座として開催いたしました。

第2回では、竣工して3年が経過する木造非住宅建築である『昭和電工武道スポーツセンター』の見学と、木構造や木造建築、木材などの最新情報を学習する座学を行いました。

◇見学会

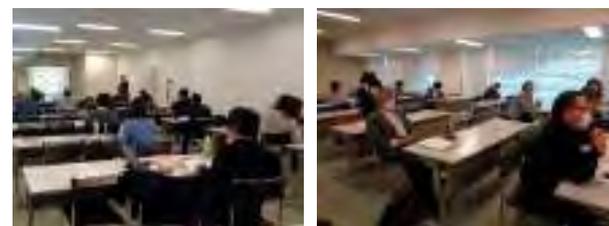
見学では、昭和電工武道スポーツセンター センター長、大分県建築士会 江藤様・平田様にご案内頂き、多目的競技場、武道場、普段入ることが出来ない貴賓室などを見ることができました。大規模木造とするための材料・構造・防耐火などの考え方や、使用している県内の材料…国東シチトウイ、日田家具、別府竹製品、宇佐鍍絵、etc…についてご教示頂きました。



◇座学

- ・座学1 13:00～14:00 杉材利用の現状と今後（ZOOM）
 （一社）き塾 代表理事 飯島泰男氏
- ・座学2 14:05～15:05 最先端木構造について
 京都大学 教授 五十田博氏
- ・座学3 15:20～16:20 最新の木構造実例について
 （株）山田憲明構造設計事務所 主宰 山田憲明氏
- ・座学4 16:25～17:30
 パネルディスカッション「これからの地域材活用について」
 飯島泰男氏（ZOOM）／五十田博氏／山田憲明氏
 （コデ・イネター）ミウラクワパートナーシップ / 日本文理大学 三浦逸朗氏

座学1では、飯島先生の膨大なデータとご見識から、杉材についての資源量や今後の見通し、材質や強度の地域差、流通と加工インフラの環境問題からの面、などと盛り沢山なお話をお聞きしました。とても時間が足りませんでしたが、ひ上に濃い内容でした。



【番外編】JIA九州支部 木活WG見学会

座学2では、五十田先生から、木材・木構造を正しく理解し活用することが重要なことや、改正省エネ法に伴う構造規程・仕様規定の方向の最新情報などをお話いただきました。実務設計者に関わる内容で、非常に勉強になりました。



座学3では、山田さんが構造設計に関わられた実例を通した木材・木構造のお話をお聞きしました。地域材・一般製材を用いた多様な架構で構成された「あわくら会館」や、午前中見学した「昭和電工武道スポーツセンター」の詳細なお話し、木造プレストレスを採用した「住友林業筑波研究所 新研究棟」のお話しなど、どれもとても興味深かったです。

座学4のパネルディスカッションは、JIA大分地域会 三浦会員にコーディネーターをお願いし、先生方の現在・これからの木材・木構造に関することをディスカッションして頂きました。先生方それぞれからの現状とこの先に関するお考えを興味深くお聞きしました。



◇まとめ

今年度第2回では、第1回に続き非住宅木造実作品の見学ができ、さらに諸先生方による非常に濃厚な講座も開催できました。参加頂いた方々とは、少なからず有意義な時間を共有できたのではないかと考えています。

6年間に渡り実施してきた木の匠育成事業・木造マイスターズ テップアップ事業は、一応今年度が最終年となります。ここ数年はコロナ禍による受講生の確保困難な状況や講座のオンライン開催、現地視察の中止など、様々な状況がありました。今回はその最終年度としての開催でしたが、何とか対面で開催できたことに一安心しています。これから、私を含めた「大分県木造マイスター」の皆様には、これまでに積み上げた木造・木質建築への知識や情報を活用していくこと、そして何より沢山の先生方や受講生とのつながりができたことを、今後の実務に活かしていただきたいと思っています。また今後も「大分県木造マイスター」のスキルアップ継続を念頭に、実務に取り組んでいきたいと考えています。

記：大分地域会 重田信爾

日時 2022年11月26日(土) 10:00~13:00
 場所 フジイブルワリー (豊後大野市千歳町)
 出席者 9名 (JIA会員 6名、他 3名)

令和4年度木の匠育成事業第2回に参加されたJIA九州支部木活WGメンバー3名のご希望もあり、翌11月26日に、三浦会員の設計監理で豊後大野市に今年9月に竣工した『フジイブルワリー』を見学しました。こちらは長さ9mの材料を使った木造・非住宅建築です。また、その木材供給者の小国町森林組合から企画販売課長 築瀬氏にもお越しいただきました。

ミウラクワノパートナーシップ事務所に集合し、そこで三浦会員からのプレクチャーを踏まえ現地へ。現地では、飲食スペースをお借りして、資料を用いてのセミナーが行われました。

小国森林組合 築瀬課長からは、フジイブルワリーの木材供給に関する段取りやスケジュールを含めた具体的なお話しや、小国町森林組合の取り組みなどをお話いただきました。

三浦会員からは、これまでの木や木造建築への取り組みの概要と、フジイブルワリー設計監理時の材料調達を含めた具体的なお話しやご苦労をお聞きしました。

その後、納まり等を三浦会員に聞きながらの施設見学を行いました。

ひと通り見学を終えた方は、お土産のクラフトビールや焼酎等のお買い物もされていました。また、藤居さんのご厚意で、新米のおにぎりを頂戴し、お腹も満たしたところで番外編終了となりました。



記：大分地域会 重田信爾



熊本地域会月例会（第7回）

- 日時：令和4(2022)年11月24日木曜日18：30-21：00
- 場所：熊本市国際交流会館2F会議室
- 参加人数：10名

1.審議事項、協議事項

1-1：住宅賞について

- ・地域会全体の会計から、2年間で約10～20万ほどを捻出し継続的に運営、協賛なしで進めるようにしたい。
- ・今年は JIA賞1点10万円 選考委員賞3点5万円
- ・審査員は5名 審査委員長候補：熊大 田中先生
- ・応募4～5月 1次審査6月 2次審査7月 作品展（シンポジウム）にて発表8月
- ・作品展と同じ時期に1次審査、2次審査を同日に行い、現地審査は行わない。

1-2：建築家作品展、ライティングパーティーについて

- ・住宅賞、作品展まで間隔が短い。今年度は見送る。

1-3：次年度予算案の件

- ・次年度予算案は1月の支部役員会までに提出。

1-4：保有財産積立の件

- ・繰越金 1,116,628円
- ・積立するとしたら
 - ①ライティングパーティー・住宅賞
 - ②全国大会（支部へ） ③災害対策費用

1-5：地震記録誌作成の件

- ・各自熊本で行った内容をフォーマットに記入し提出し、林田にてまとめる。

2.報告事項、確認事項

2-1：25年賞審査日程の件

- ・12/18 熊本城も案内、KKR昼食予定

2-2：プルテン執筆 「あこのろ」の件

- ・担当：丹伊田

3.その他 なし

4.CPD

- ・富士川一裕氏による 「熊本街並みトラストの歩みと熊本のまちづくり」

5. 閉会 21：00

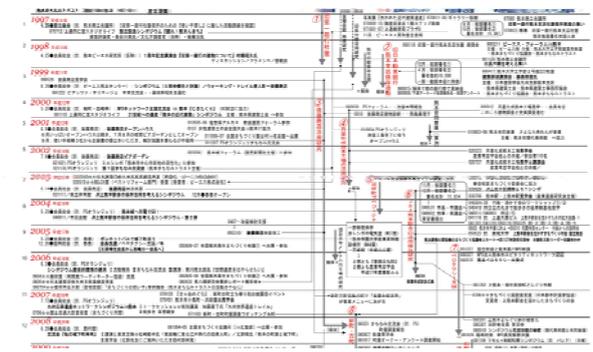


CPD「熊本街並みトラストの歩みと熊本のまちづくり」

- 日時：令和4(2022)年11月24日木曜日20：00-21：00
- 場所：熊本市国際交流会館2F会議室
- 講師：富士川一裕氏
(都市計画家/熊本まちなみトラスト事務局)
- 参加人数：10名

熊本まちなみトラスト（略称：KMT）は『記憶の継承』を基本コンセプトとして熊本の明日を語り、行動する非営利の市民団体である（KMT HPより）。熊本地域会の長野氏も理事を務め、近代化遺産の顕彰および建物の保存活動、その他様々なまちづくり活動を行っている。25周年記念シンポジウムに先立ち事務局の富士川氏より講演頂いた。

KMTは、1986年から活動していた古町研究会が母体となり、旧第一銀行社屋（現PSオランジュリ）の保存呼びかけ人会が設立総会を開き、1997年に設立された。熊本地震後の2017年NPO法人化している。発足のきっかけである旧第一銀行社屋を皮切りに旧日本勧業銀行熊本支店（解体）、月星化成熊本工場、JR上熊本駅舎等建物の保存活動を行ってきた。それに加え、河原町プロジェクト（シャッター街への若者の出店支援）やベロタクシー支援（大学院生にて運営）等のまちづくり、若者の支援活動も数多く行ってきた。熊本地震後は新町・古町での活動や文化財登録の促進等の復興支援に力を入れている。講演では、これらKMTの活動と熊本の近代化遺産やまちの変遷が一体となった複雑な年表を用いて各活動をご紹介頂いた。複雑と言うと失礼かもしれないが、それだけKMTの活動が年表に凝縮されたいた。無念な結果となってしまったものも少なくなく、多くの苦労が垣間見え、KMTの活動に加え40年近く熊本のまちづくりに尽力されてきた富士川氏のまじいバイタリティを感じた。



熊本まちなみトラストが取り組んだ主要プロジェクト（NPO設立以前1997-2016）

① 旧第一銀行社屋（現PSオランジュリ）

前身の古町研究会がかねてから保存会を組織するなどして注目していた1986（大正11）年建築の旧第一銀行熊本支店がマンション高層化して取り壊されたことを知り、シンポジウムの開催、街頭署名各等活動が展開された。1987年、熊本市が「熊本市近代化遺産」に10ヶ所を指定し、保存と活用が求められた。保存と活用が求められた。この保存活動が契機となって熊本まちなみトラストが設立された。実業研究会が事務局となり、1987年発足していった。

熊本市近代化遺産を指定されたPSオランジュリ。1987年発足した実業研究会が事務局となり、1987年発足していった。

② 旧日本勧業銀行熊本支店 保存活動

主幹第一銀行は、1979年に勧業銀行との合併で第一勧業銀行（現みずほ銀行）となり熊本支店も現所在地にある1982（昭和57）年建築の旧勧業銀行熊本支店が解体された。その第一勧業銀行支店跡の建物は、1986年に指定された。旧第一勧業銀行支店跡の建物は、1986年に指定された。旧第一勧業銀行支店跡の建物は、1986年に指定された。

PSオランジュリ（旧第一銀行社屋）

旧日本勧業銀行熊本支店



宮崎地域会例会 第3回

日時：7月14日 木曜日 19：00～20：30
 場所：宮崎市民プラザ3F
 参加人数：6名+（賛助会員幹事1名）

報告、検討事項

- ・くまもと建築塾について資料を元に報告
- ・九州支部大会の件について資料を元に報告
宮崎地域会→2名参加要請あり
- ・全国大会の件について資料を元に報告
本部理事：作田
- ・学生会員規約について資料を元に報告
各地域会にて内容検討の要請あり
- ・LCA委員会の設立について資料を元に報告
委員会のあり方、委員の募集方法について検討

その他報告事項

- ・本部理事（作田氏）報告
コロナによる黒字会計の処理について
- ・意匠権について…役員会の中で佐々木（寿）氏より説明
現在、内容を整理中。設計者に不利な状況が多くみとめられる。
近々取りまとめで報告するとのこと。
- ・各地域会組織表について
支部より各会にて周知してくださいとのこと。
- ・木活について…担当は松島副支部長
LCA等とも絡み活動が活発になりつつある。
福岡、大分、鹿児島で開催出来たら良いと検討中との事。

建築セミナー第1回実行委員会

日時：7月29日 金曜日 18：00～19：00
 場所：宮崎市民プラザ3F
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA3名・事務所協会1名・士会1名）

議案

- ・今年度の建築セミナーに関して協議
- 1. 2021年JIA新人賞受賞者全員に声をかける
今回の新人賞受賞者は3組、5名であることを報告。
 - ・a. 「ハウスエスショップビー」… 木村 吉成氏 松本 尚子氏
 - ・b. 「高岡のゲストハウス」 … 能作 文徳氏
 - ・c. 「サクラと住宅」 … 神田 篤宏氏 佐野 もも氏
- 2. セミナーの予算について
・今回も昨年と同額の予算で良いとなった。
- 3. セミナーの時期について
昨年のアンケート結果、また各団体の事業日程も踏まえ
11月開催で進める。
- 4. その他
次回実行委員会：8月26日（金）18:00～とする。

建築セミナー第2回実行委員会

日時：8月26日 金曜日 18：00～21：00
 場所：吉原建設会議室
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA0名・事務所協会1名・士会2名）

現状報告

- ・講師予定者の状況
木村 吉成氏 … 出席OKの返事（8/26日）
神田 篤宏氏 … 出席OKの返事（8/26日）
能作 文徳氏 … 本日時点で回答なし

検討事項

- ・開催日の確定
会場の状況把握後に決定する。
候補会場を各担当がチェックし報告する。
- ・当日の内容の詰め協議
→各担当（役割分担）の決定
- ・次回実行委員会：9月9日（金）18:00～
参加予定講師についての事前勉強会を行う

建築セミナー第3回実行委員会

日時：9月9日 金曜日 18：00～19：30
 場所：ズーム会議
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA2名・事務所協会2名・士会1名）

現状報告

- ・講師予定者の状況
木村 吉成氏、神田 篤宏氏については前回報告の通り。
能作 文徳氏 … 日程調整中との返事がJIA本部を通じてあり。

検討事項

- ・開催場所、日時について
会場の第一候補を県電ホールとし11/12日を第一候補日、11/19日を第二候補日とする。
県電ホールが不可だった場合、青島青少年自然の家を会場とし11/19日とする。
- ・作成文書について
- ・当日の内容の詰め
- ・その他
次回実行委員会：9月29日（木）18:00～

宮崎地域会例会 第4回

日時：9月8日 木曜日 19：00～20：30
 場所：宮崎市民プラザ3F
 参加人数：7名名）

報告、検討事項

- ・くまもと建築塾：開催日9月16日（金）～17日（土）
役員会は集合形式（ホテルグリーンピア南阿蘇）およびWEB形式で行う。
- ・全国大会：開催日10月20日（木）～22日（土）
9/5日 支部より再度参加要請あり…締め切り9/20日
支部参加目標60名→現在32名
- ・建築セミナー2022について現状を報告

建築セミナー第4回実行委員会

日時：9月29日水曜日 18：00～21：00
 場所：宮崎市民プラザ3F
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA2名・事務所協会1名・士会2名）

現状報告

- ・講師予定者の状況
 木村 吉成氏、神田 篤宏氏については前回報告の通り。
 能作 文徳氏… まだ返事無し、明日JIA本部より連絡してみる
 との事。

検討事項

- ・開催場所、日時について
 会場：青島青少年自然の家に決定
 11/19日にて決定。時間は15:00～18:00
- ・作成文書について
- ・講師の送迎について
- ・講師のチケット、宿泊施設について

建築セミナー第5回実行委員会

日時：10月6日木曜日 13：00～15：00
 場所：宮崎市民プラザ3F
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA2名・事務所協会2名・士会2名）

セミナー会場視察

- ・会場の現状確認。
 パソコン等の作動状況の確認

その他

- ・能作 文徳氏… セミナー参加はできない。

建築セミナー第6回実行委員会

日時：11月10日木曜日 18：00～19：30
 場所：吉原建設 会議室
 参加人数：6名（JIA2名・JSCA2名・事務所協会2名・士会2名）

現状報告

- ・参加者申し込み状況の報告
 再度声掛け等を行い参加者の増員を図る。
 - ・講師近況報告
 木村松本建築設計事務所
 松本さんが出席が叶わなくなり木村さんのみの参加
 当日 10：40 着、翌日 19：20 発の予定
 コンマ、一級建築士事務所… 神田さん、佐野さん
 - ・当日の必要品等の確認
 集合時間、見学資料、受付廻り、会場廻り
 各担当の確認
 - ・懇親会 … 会場：うなまんもん 19：00 キックオフ
- その他
- ・報告書作成について… 今回はJSCAにて行う
 - ・セミナー翌日の講師アテンド… 基本実行委員は全員参加とする

建築セミナー2020

日時：11月19日土曜日15：00～18：00
 場所：青島青少年自然の家
 参加人数：50名



日本建築学会鹿児島支所講演会（後援） 11/26

例年、鹿児島地域会では日本建築学会鹿児島支所主催の講演会を後援しています。

本年度は講師として宮崎浩氏と満田衛資氏の両氏に登壇いただき鹿児島大学にて開催いたしました。

学生を中心に大学、学会関係者、JIA鹿児島地域会員などが参加いたしました。

宮崎浩氏には「つながる建築」と題して長野県立美術館を中心に、満田衛資氏には「構造デザインの方法論」と題してカモ井加工紙mt新倉庫の構造方式などレクチャーいただきました。

その後、両講師を交えた懇親会を行い、翌日は知覧麓や旧鯉坂邸など見学していただきました。



講演会



桜島



講演会



知覧麓

鹿児島地域会11月度例会

11月度の地域会例会を11/28日に開催した。参加人数は11名
 会議後に懇親会を行い、講演卓話として 鯨坂会員、岩田会員
 より欧州旅行記をレクチャーいただいた。

以下会議内容

□報告事項

- ・旅費規程の改正
- ・地域会来年度予算案
- ・遊休財産の保有程度について
- ・本部理事の件など
- ・JIA 25年建築選・建築賞「みやまコンセール」の審査状況
 (12/10現地審査)
- ・講演会・鹿大合同講評会及び建築展・シネマ祭の総括

□協議事項

- ・合同例会とオープンレクチャー開催内容の件（同時開催）
 R4.2.10開催予定 講演は佐藤会長予定
- ・鹿大後期合同講評会講演会 R4.2.11開催予定 講師未定
- ・KIRA全北との国際交流 Web会議の検討
- ・JIA鹿児島会賞の件 鹿大、第一工大、県短の3校 2月～3月
- ・オープンハウス鹿児島 2～3月予定
- ・デザインレビュー 内容協議中

□その他

- ・学生会員募集 各大学への案内を行う。
- 以上



例会



欧州旅行記 講演卓話

編集後記

寒波と新型コロナ第8波が押し寄せ、感染者数が増加傾向ながらも3年ぶり行動制限のない年末年始。今回も忙しい時期にもかかわらず執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。オピニオンでは3年ぶりに開催された全国大会に参加して思うことを西岡さんに執筆いただきました。全国大会の感想に始まり、建築の誕生から廃墟になるまでの建築の魅力、戦後の教育問題から外交問題まで幅広く大変興味深い内容です。少々辛口な表現は将来の日本、JIAを憂いてのことと思います。全国大会テーマの先に未来へ向かうためのメッセージが秘められていることに気付かされました。「おしえて」コーナーは北九州市立大学の建築デザイン学科福田教授に研究室紹介を執筆いただきました。研究分野が多岐にわたるため、学生は意匠、構造、設備、環境配慮、施工と幅広く学ぶことができるのではないのでしょうか。また建築学の習得と設計を両方体験できる環境を大変羨ましく思います。今井さん執筆の「建築家派遣エコルサポート」では同級生と共同して作り上げる楽しさや難しさを体験でき、将来なりたい職業が建築家という選択肢が増えたことと思います。参加した会員は思いもよらない小学生の豊かな想像力に驚愕したとのこと。佐賀のクリークの魅力を川崎さんのわかりやすい文章と写真で伝えていただきました。佐賀中心部だけで2000km以上の規模に驚き、水確保、貯留、排水路、輸送、防衛、観光など様々な用途や将来にむけてポテンシャルがあることを教えていただきました。行政、自治体、市民そして地元の建築仲間の思いでつくりあげる地域の魅力は素晴らしく、今後九州の水都佐賀の魅力が増えていくのではないのでしょうか。2016年熊本地震直後一週間の生々しい記録を丹井田さんに執筆いただきました。当事者だからこそ書ける地震の威力、大変な仕事状況、ライフラインを寸断されたギリギリの生活状況が伝わってきます。地震より6年以上経過した今、当時の被災地支援を思い起こし、将来災害発生したときに自分が力になれるよう今準備しておくことを改めて考えてみたいと思います。「よかもん」では藤本さんの夢に向かっていく気持ちを執筆いただきました。何事も始めるのに遅すぎることはないと言わんばかりに前向きにチャレンジし、何度落ちてでも夢に向かって走りつづける姿に感銘を受けました。免許取得の大変さの先にある空からの見える景色、果てしない空の魅力のお話も聞いてみたいです。「わさもん」では新入会員で建築設備家の桑野さんに自己紹介を執筆していただきました。来年も対面事業が再開しますのでこれからよろしくお願いたします。九州大学芸術工学部吉田さんに「いまどき」を執筆いただきました。今までの建築に疑問をもちながら可能性を信じて建築を志す学生を大変頼もしく感じます。「協力会つうしん」は長崎地域会協力会早田さんに執筆いただきました。国産材活用やSDGsの取り組みなど今後共に学びながら会員と協力会の強い信頼関係が築けていければと思います。上記記事に加えて本号は対面事業が復活した地域会活動報告も充実しておりますのでご覧いただければ幸いです。来年も魅力ある誌面づくりに精一杯努めてまいりますので何卒よろしくお願いたします。来年が皆様にとって素晴らしい年になりますように。

広報副委員長 有吉兼次

